

地方独立行政法人北九州市立病院機構
令和元年度の業務実績に関する評価結果報告書

令和2年8月

北九州市

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
1 大項目評価	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
2 小項目の実績・状況	9
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	22
1 政策医療の着実な実施	22
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実	32
3 医療の質の確保	42
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保	56
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	68
1 収入増加・確保対策	68
2 経費節減・抑制対策	76
3 自立的な業務運営体制の構築	80
4 職場環境の充実	88
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	92
1 財務基盤の安定化	92
2 運営費負担金のあり方	98
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	100
1 看護専門学校の運営	100
2 施設・設備の老朽化対策	104
3 市政への協力	106
第5 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	108
第6 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	108

はじめに

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人北九州市立病院機構の令和元年度における業務実績の全体について、地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会の意見聴取を行った上で、総合的に評価を実施した。

評価に際しては、「地方独立行政法人北九州市立病院機構業務実績評価の基本方針」及び「地方独立行政法人北九州市立病院機構年度評価実施要領」に基づき行った。

地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会 委員名簿

氏名	役職等	備考
穴井 堅能	北九州市医師会 会長	
石橋 薫	福岡県看護協会 専務理事	
小松 啓子	社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 理事長 福岡県立大学 名誉教授	
田中 雅夫	地方独立行政法人下関市立市民病院 理事長	
松木 摩耶子	松木公認会計士税理士事務所 公認会計士・税理士	
柳井 雅人	北九州市立大学 副学長	委員長
吉田 ゆかり	医療法人よしだ小児科医院 理事長	
渡邊 典子	思永法律事務所 弁護士	

(令和2年7月17日現在)

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和元年度の業務実績の全体評価は、「**中期計画の実現に向けて計画よりやや遅れている**」とする。

2 評価理由

第1期中期目標期間の初年度である令和元年度の業務実績について、第1及び第4の大項目評価は「評価B」、第2、第3は「評価C」となった。

理事長を中心に、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立的な運営を目指した取り組みに着手しているが、財務内容の改善が図れず、令和元年度の経常収支等は悪化している。

このため、令和元年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画よりやや遅れている」と評価した。

なお、独立行政法人化初年度である令和元年度では、「取り組み、成果、課題、評価理由等」において、「調査・研究に着手した」「準備に取り組んだ」などと記述する項目が約40あった。令和2年度以降においては、こうした調査・研究、準備をベースに、質の高い医療の提供や効率的・効果的な業務運営の実現に向け、積極的に取り組みを進めることを期待する。

評価にあたっての評価委員会意見・指摘等

- 計画の目標を達成しているかどうかの指標について、中期目標最終年度の目標値と比べるよりも各年度の目標値と比較した方が評価しやすいのではないかと。
- 「実績及び法人自己評価」の記載において、例えば「〇〇の見直しに着手した」だけでなく、どのように見直しをして、その結果がどうであったかなど、具体的な内容を記載すると、さらにわかりやすい内容となるのではないかと。
- 「小児救急を含む救急医療」の評価は「2」であるが、小児救急は、北九州市が子育てしやすい街として高く評価されている要因のひとつであり、小児救急については評価してよい。一方で、救命救急センターとして、循環器内科や脳外科などの診療体制を早期に確立させていくことが急務である。
- 「病床利用率の向上」において、病床利用に余裕があれば、小児のレスパイトケアを増やしてもよいのではないかと。

3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
		評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12	1		10	1		3.1	B
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8			7	1		2.9	C
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4			2	2		2.5	C
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3		1	2			3.3	B
合計	27	1	1	21	4	0	-	-

- 評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる
(市長が特に認める場合)
- 評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
(小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上)
- 評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
(小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、
小項目評価結果の平均が3以上)
- 評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(小項目評価結果の平均が3未満)
- 評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(市長が特に認める場合)

第2項 項目別評価

1 大項目評価

第1	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
----	--

評価結果	B	中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
評価理由	<p>感染症医療において、医療センターは、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症対策の中心的な役割を担った。</p> <p>救急医療において、八幡病院は、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うものの、救急対応する医師の不足により救急応需率が低下するなどの課題を抱えている。</p> <p>医療の充実において、医療センターでは、地域連携がん診療拠点病院として、高度で専門的な医療を提供するための取組みを進め、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入や更新したりニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の開始などに取り組んだ。また、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、チーム医療の強化・充実などを実施した。</p> <p>八幡病院では、小児医療については、新病院において整備した施設・設備を活用した取組みを進めるとともに、「小児疾患特定疾病児童等レスパイト支援事業」の実施など障害を持つ小児患者や家族に対する医療面での支援の充実を図った。</p> <p>医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取組みを進めるとともに、チーム医療の推進や医療安全対策など、年度計画に基づいた取組みを進めた。</p> <p>院内環境の整備では、医療センターでは、31年2月に設置した消化器センターや女性専用病棟の運用を行うとともに、患者支援センターを開設するなどに取り組んだ。</p> <p>以上のことから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 政策医療の着実な実施					
(1) 感染症医療	○				
(2) 周産期医療			○		
(3) 小児救急を含む救急医療				○	
(4) 災害時における医療			○		
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実					
(1) 医療センター			○		
(2) 八幡病院			○		
3 医療の質の確保					
(1) 人材の確保・育成			○		
(2) 医療の質の確保、向上			○		
(3) 医療安全の徹底			○		
(4) 医療に関する調査・研究			○		
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保					
(1) 患者サービスの向上			○		
(2) 地域医療機関等との連携			○		
合 計	1		10	1	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	C	中期計画の実現のためにはやや遅れている
評価理由	<p>独立行政法人化初年度である令和元年度は、マネジメント体制の確立などの自立的な業務運営体制の構築を進めるとともに、経費削減・抑制対策についての取り組みを進めた。</p> <p>一方で、病床利用率や入院延べ患者数、診療単価等について、営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした法人の目標と乖離が生じている。</p> <p>また、適切な診療報酬の確保については、施設基準の取得を進めるとともに、経営状況や診療報酬制度等への理解を深めるための取り組みや、プロパー職員の採用等による事務処理効力の強化に努めているが、査定減比率の改善には結びついていない。</p> <p>このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 収入増加・確保対策					
(1) 病床利用率の向上				○	
(2) 適切な診療報酬の確保			○		
2 経費節減・抑制対策					
(1) コスト節減の推進			○		
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備			○		
3 自立的な業務運営体制の構築					
(1) マネジメント体制の確立			○		
(2) 職員の経営意識の向上			○		
(3) 法令・行動規範の遵守等			○		
4 職場環境の充実			○		
合 計			7	1	

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	C	中期計画の実現のためにはやや遅れている
評価理由	<p>マネジメント体制の確立や目標管理の徹底、増収対策、費用削減に取り組んでいるものの、営業収支と経常収支は目標値を大きく下回る赤字となった。また、単年度実質収支と年度末資金剰余についても、移行前地方債償還債務の返済時期のずれを加味すれば目標値を大幅に下回っている。</p> <p>このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 財務基盤の安定化					
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。			○		
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。				○	
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。				○	
2 運営費負担金のあり方			○		
合 計			2	2	

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果	B	中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
評価理由	看護専門学校において優秀な人材を育成する地域の看護師養成機関として臨床看護及び教育の質の向上に努めていること、医療センターの老朽化対策を進めていること、市政へ積極的に協力していることから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 看護専門学校の運営			○		
2 施設・設備の老朽化対策			○		
3 市政への協力		○			
合 計		1	2		

2 小項目の実績・状況

評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績報告書を作成する。なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 北九州市評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の5段階による評価を行う。

その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

I 法人に関する基礎的な情報

1 法人の概要

(1) 法人の目的

地方独立行政法人法に基づき、地域の医療機関との役割分担と連携の下、北九州市の医療施策として求められる医療の提供、医療に関する調査研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うことにより、医療水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

(2) 法人の名称

地方独立行政法人北九州市立病院機構

(3) 法人の設立団体

北九州市

(4) 本部の所在地

北九州市小倉北区古船場町1番35号（北九州商工貿易会館内）

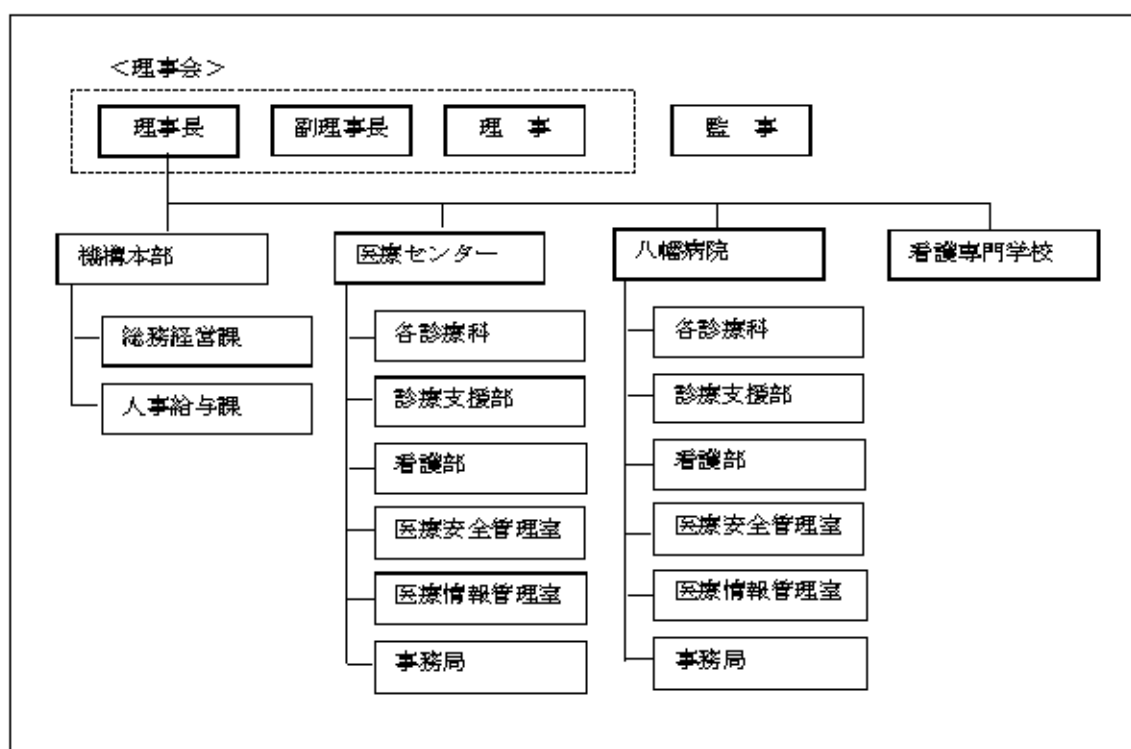
(5) 沿革

平成31年4月1日 地方独立行政法人として設立

(6) 設立に係る根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

(7) 組織図



(8) 設置・運営する施設の概要

北九州市立医療センター	北九州市小倉北区 馬借二丁目1番1号	一般病床 506床 感染症病床 16床
北九州市立八幡病院	北九州市八幡東区 尾倉二丁目6番2号	一般病床 312床
北九州市立看護専門学校	北九州市小倉北区 馬借二丁目1番1号	定 員 120名

(9) 資本金の額

資本金の額 15億9421万円

(10) 役員の状況

理事長(常勤)	中西 洋一	
副理事長(常勤)	武田 信一	機構本部長
理事(常勤)	中野 徹	北九州市立医療センター院長
理事(常勤)	伊藤 重彦	北九州市立八幡病院院長
理事(非常勤)	田中亮一郎	第一交通産業株式会社代表取締役社長
理事(非常勤)	松本 哲朗	元産業医科大学病院長・北九州市医務監
監事(非常勤)	中野 昌治	弁護士
監事(非常勤)	和唐 雄一	公認会計士

(11) 職員数 ※令和2年3月末現在

北九州市立医療センター	1,036人
北九州市立八幡病院	623人
北九州市立看護専門学校	15人
機構本部	30人
合 計	1,704人

※常勤職員数 1,222人(前年度より65人増加)、平均年齢 39.7歳

市から法人への出向者数 59人、非常勤職員数 482人

2 基本的な目標等

当機構が運営する医療センター及び八幡病院は、政策医療として周産期、感染症、小児救急を含む救急及び災害時における医療を担っているほか、医療センターはがん医療、八幡病院は小児医療において、北九州地域で有数の実績を示している。

また、設立団体である北九州市からは、政策医療等を着実に実施するとともに、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立した病院運営を行うこと、福岡県地域医療計画の実現に向けて地域医療機関との役割分担と連携に取り組むことが期待されているほか、中期目標期間において営業収支及び経常収支の黒字化を実現することが求められている。

当機構では、北九州市から示された中期目標を実現するため、政策医療を着実に実施しつつ、経営基盤の安定化に向けて、理事長のリーダーシップの下、職員一丸となって取り組むこととしている。

【北九州市立病院機構の基本理念】

1. 常に安全・安心で患者さんに信頼される医療を提供します。
2. たゆまず研鑽を積み、技能を磨き、最高の医療を提供します。
3. 地域との連携の下に、市民の病院としての役割を果たします。
4. 優秀な医療人材を育成し、地域社会に貢献します。

II 財務に関する情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	29,253	固定負債	28,799
有形固定資産	27,479	資産見返負債	1,149
無形固定資産	591	長期借入金	556
投資その他の資産	1,183	移行前地方債償還債務	20,024
流動資産	5,057	引当金	6,470
現金及び預金	1,297	資産除去債務	143
医業未収金	3,585	長期リース債務	457
未収金	72	流動負債	5,510
医薬品	76	1年以内返済予定 移行前地方債償還債務	2,211
診療材料	21	預り補助金等	1
前払金	3	寄附金債務	1
前払費用	0	医業未払金	1,797
その他流動資産	3	未払金	435
		未払消費税等	26
		預り金	100
		引当金	868
		短期リース債務	63
		その他流動負債	8
		負債合計	34,309
		純資産の部	金額
		資本金	1,594
		繰越欠損金	▲1,594
		純資産合計	1
資産合計	34,309	負債純資産合計	34,309

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科目	金額
営業収益	25,430
医業収益	21,942
看護師養成収益	59
運営費負担金収益	3,355
補助金等収益	37

寄附金収益	0
資産見返補助金等戻入	35
資産見返寄付金等戻入	3
営業費用	27,140
医業費用	25,632
看護師養成費用	178
一般管理費	430
控除対象外消費税等	841
資産に係る控除対象外消費税償却	58
営業損失	1,710
営業外収益	284
運営費負担金収益	84
その他営業外収益	201
営業外費用	162
財務費用	155
その他営業外費用	7
経常損失	1,588
臨時利益	77
臨時損失	83
当期純損失	1,594
当期総損失	1,594

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
業務活動によるキャッシュ・フロー	978
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,231
財務活動によるキャッシュ・フロー	336
資金増加額	83
資金期首残高	1,214
資金期末残高	1,297

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

(4) 行政サービス実施コスト計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
業務費用	5,180
損益計算書上の費用	27,385
(控除) 自己収入等	▲22,205

引当外退職給付増加見積額	18
機会費用	0
行政サービス実施コスト	5,198

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

2 重要な施設等の整備の状況

該当なし

3 予算及び決算の概要

(1) 業務量 (法人全体)

項目		予算 (A)	決算 (B)	比較 (B-A)
入院	稼働病床数 (床)	834	834	0
	病床利用率 (%)	87.1	80.7	▲6.4
	1日平均患者数 (人)	726.2	673.1	▲53.1
	年間延べ患者数 (人)	265,774	246,348	▲19,426
	診療単価 (円)	60,218	59,515	▲703
外来	1日平均患者数 (人)	1,623.5	1,629.6	6.1
	年間延べ患者数 (人)	396,139	394,363	▲1,776
	診療単価 (円)	16,967	17,513	546

(2) 予算及び決算の概要 (法人全体)

(単位: 百万円)

項目	予算 (A)	決算 (B)	比較 (B-A)
収入	27,801	26,290	▲1,511
営業収益	26,708	25,427	▲1,281
医業収益	23,271	21,976	▲1,295
運営費負担金収益	3,340	3,355	15
補助金収益	37	37	▲0
その他	60	59	▲1
営業外収益	333	293	▲40
運営費負担金収益	99	84	▲15
その他営業外収益	234	209	▲25
臨時利益	-	1	1
資本収入	761	570	▲190
長期借入金	761	556	▲205
その他資本収入	-	14	14
支出	27,980	25,764	▲2,216

営業費用	24,568	24,734	165
医業費用	23,871	24,144	273
給与費	13,940	13,743	▲196
材料費	6,298	6,601	303
経費	3,522	3,712	191
その他	111	88	▲24
一般管理費	539	421	▲118
給与費	220	214	▲6
経費	318	207	▲111
その他	2	0	▲1
その他	159	169	10
営業外費用	239	189	▲50
臨時損失	-	7	7
資本支出	3,173	835	▲2,338
建設改良費	761	635	▲127
償還金	2,211	-	▲2,211
その他支出	200	200	-
単年度資金収支	▲179	526	705
年度末資金剰余	2,022	2,727	705

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

Ⅲ 事業に関する説明

1 法人の総括と課題

独法化初年度となる令和元年度は、理事長のリーダーシップの下、「市立病院のブランド力の向上」と「役員及び職員の経営に対するマインドセットの変革」を掲げて、北九州市立病院機構としての自立的な運営体制の確立に取り組んだ。

特に、機構全体のマネジメント体制については、常勤役員によるミーティングや、幹部職員で構成する経営本部会議の設置により、定期的かつ迅速に経営状況や運営上の課題等を共有しながら、適時適切に方針決定していく独自の仕組みを構築した。

また、新しい組織風土づくりに向けて、機構全体の基本理念・シンボルマークの策定、職員向け広報誌の発行など、医療センター・八幡病院・看護専門学校・機構本部という4つの部門の一体感の醸成に努めるとともに、経営状況説明会、診療科別経営ヒアリング、働き方改革の検討などを通じて、職員と経営幹部の相互交流を推進した。

さらに、医療提供機能の強化に向けて、多様な職種において優秀な人材を確保して人員体制を大幅に充実させたほか、手術支援ロボットの導入や、治験・臨床研究の充実など、病院の将来につながる取り組みも着実に進めた。

一方、経営状況については、新たな施設基準の獲得や病床稼働率の向上、新たな契約制度の導入など収支両面での取り組みが一定の成果をあげたものの、収益面及び費用面で想定外の事態が発生したことや、市内でも新型コロナウイルスの感染が拡大した影響もあり、令和元年度の決算は非常に厳しいものとなった。

今後は、新型コロナウイルス対策によって更なる収支の悪化が予想される中、医師をはじめとする優秀な人材の獲得、治験・臨床研究の推進、働き方改革など機構の将来に向けた施策を推進しつつ、病床稼働率の向上や経費削減を着実に進めることにより、経営基盤の安定化に向けて、職員一丸となって取り組むこととしたい。

2 大項目ごとの特記事項

(1) 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 政策医療の着実な実施

当機構が担う政策医療である感染症医療、周産期医療、小児救急を含む救急医療及び災害時における医療の提供については、効果的かつ効率的な運営に努めた。

特に、感染症医療については、今般の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても外来患者及び入院患者の受入れを積極的に行うなど、当機構の2つの病院が、北九州地域の新型コロナウイルス対策における中心的な役割を担っている。

イ 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実

医療センターにおいては、がん医療について、高度で専門的な医療を提供するため、がんゲノム医療提供体制の整備、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入等を行った。

また、がん患者や家族の支援機能を充実させるため、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、がん相談支援センターやがん看護外来の充実等にも取り組んだ。

八幡病院においては、小児医療について、専門性の高い小児科医を確保するとともに、小児集中治療室（PICU）・無菌室を活用した専門医療を充実させたほか、小児患者の在宅医療の支援にも取り組んだ。

ウ 医療の質の確保

人材の確保・育成については、機構全体での職員採用計画を作成するとともに、リクルート活動を強化し、医師をはじめとする多様な職種の人材確保に努めた。また、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境を整備するため、資格取得を支援する制度や教育研修制度の構築にも着手した。

医療の質の確保・向上については、医療の多様化や複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携する「チーム医療」の推進に取り組んだほか、医療の標準化に向けてクリニカルパスの活用を推進した。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入等、医療の高度化に対応するための取組みを進めた。

医療安全の徹底については、安全で安心な医療を提供するため、院内ラウンドや医療安全研修会を実施するとともに、インシデント・アクシデントレポートの分析による医療事故等の予防策の検討などに取り組んだ。また、地方独立行政法人として機構全体の危機管理体制の構築にも取り組んだ。

医療に関する調査・研究については、高度で先進的な医療の提供に向けて、機構全体で治験・臨床研究を推進していくための体制整備に取り組んだ。

エ 市民・地域医療機関からの信頼確保

患者サービスの向上については、患者に寄り添う新たな看護方式の検討や受付・診察の待ち時間の短縮など患者目線での病院運営に取り組むとともに、新たに医療センターに女性専用病棟や患者支援センターを開設して快適な院内環境を整備したほか、機構全体のホームページを再構築してきめ細かな情報を発信するなど患者や市民への情報提供の充実にも取り組んだ。

地域医療機関等との連携については、地域医療機関に信頼される病院を目指して、アンケートやヒアリングを通じた課題の把握や改善策の検討を行ったほか、医療連携室の機能強化に取り組んだ。

また、医療センターと八幡病院の連携については、テレビ会議システムを導入して遠隔で相互のカンファレンスや会議を開催できる体制を整備したほか、各病院の専門分野における相互の患者紹介を推進するとともに、新たに医師や診療放射線技師の人事交流にも取り組んだ。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 収入増加・確保対策

病床利用率の向上については、具体的な数値目標を設定してベッドコントロールの効率化を推進したほか、救急患者の積極的な受入れに取り組んだ。また、収支の改善に向けて、診療料ごとに数値目標を設定して進捗管理していく体制を整えた。

適切な診療報酬の確保については、医療事務の処理能力の強化に向けて、専門的知識や経験を有する人材を獲得したほか、診療報酬に関する勉強会を実施して職員の能力向上に努めた。また、最新の診療報酬制度に的確に対応するため、新たな施設基準の取得に取り組んだほか、査定減比率の向上や未収金の防止対策にも取り組んだ。

イ 経費節減・抑制対策

コスト削減の推進については、調達部門に専任職員を配置して組織体制の強化を図ったほか、高額医療機器の調達と複数年保守の一体契約を行うなど地方独立行政法人制度の特長を活かした柔軟な契約制度の導入を推進した。また、後発医薬品の採用率向上や両病院の委託契約の一本化などにも取り組んだ。

医療機器等の有効活用及び計画的な整備については、医療機器の運用部門を集約して効率化を進めたほか、また、両病院の電子カルテの共通化に向けた工程確認を行ったほか、両病院での医療機器の規格統一化にも取り組んだ。

ウ 自主的な業務運営体制の構築

マネジメント体制の確立については、常勤役員によるミーティングを頻回に開催して課題等を共有し、かつ迅速に対処できる体制を構築するとともに、理事会に次ぐ意思決定機関として機構幹部職員で構成する経営本部会議を設置して機構全体のマネジメント体制を構築した。また、病院経営に精通した民間人材を登用して病院事務局の組織体制を強化したほか、機構全体の基本理念・シンボルマークを策定するなど職員が一丸となって病院運営にあたるための組織風土づくりにも取り組んだ。

職員の経営意識の向上については、病院運営や経営状況等を職員にリアルタイムに提供するため、職員向けの経営状況説明会を開催したほか、職員向け広報誌の定期的な発行やグループウェアを活用した情報発信等にも取り組んだ。

法令・行動規範の遵守等については、組織のガバナンス強化に向けた内部統制の整備に着手したほか、ハラスメント対策専門官の配置、内部規定の整備等によるハラスメント防止対策の強化に取り組んだ。

エ 職場環境の充実

働きやすく、長く働き続けることができる職場環境を構築するため、弾力的な勤務時間の導入や院内保育所の機能強化を実施するとともに、医療スタッフの負担軽減やタスクシフティングの推進に取り組んだほか、さらなる人事給与制度や評価制度の見直しに向けた調査・研究を進めた。また、各部門の全ての職種で構成する「働き方改革研究会」を立ち上げて、今後の働き方改革に向けた具体策を取りまとめた。

(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 財務基盤の安定化

財務基盤の安定化については、月次決算や部門別の目標達成状況の分析・共有により、目標管理による効率的な病院運営に努めるとともに、目標達成に対するインセンティブ制度の導入や寄付金受入れ制度の創設にも取り組んだ。

一方、令和元年度の経営状況については、収益面では、医療センターは上半期の低迷、八幡病院は内科系医師の大量退職等によって稼働目標を大きく下回ったほか、1月以降は新型コロナウイルス対策のため病床調整を行ったことにより、入院収益は予算目標を大きく下回った。また、費用面では、先行投資として手術支援ロボットを導入したほか、高額医薬品の使用増加、人件費高騰による委託料の増加等、新たに多額の費用が発生したため、費用が予算目標を上回る結果となった。そのため、令和元年度の決算については、中期目標に掲げた「営業収支及び経常収支の黒字化」が実現できない厳しいものとなった。

イ 運営費負担金のあり方

運営費負担金については、不採算医療である感染症医療や周産期医療などの政策医療を着実に実施していくため、市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と必要な協議を行った。

(4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

ア 看護専門学校運営

看護専門学校については、臨床看護及び教育の質の向上に向けて、優秀な教員人材の確保、教員の外部研修への参加などを実施するとともに、オープンキャンパスや学校訪問の実施など学校施設等の開放に取り組んだ。また、卒業生の市内就職率の向上に向けた卒業生のフォローアップに取り組んだほか、奨学金制度や授業料等の学生負担に関する調査・研究にも着手した。

イ 施設・整備の老朽化対策

建築後25年以上を経過した医療センターの施設や設備等の老朽化対策について、機構内部での調査・研究に着手した。また、政策医療については、市と緊密に連携しながら、市全体の枠組みの中で実施体制の改善等に取り組んだ。

ウ 市政への協力

市との緊密な連携体制の構築に向けて、市幹部と機構幹部の意見交換や、担当部局との定期的な情報交換を実施した。また、新型コロナウイルス対策については、市の要請に応じて、外来診療や入院受入れなどを積極的に行うなど市内の医療機関の中心的な役割を果たした。

項目別の状況

<p>中期目標 (項目)</p>	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (1) 感染症医療</p>
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>
<p>(1) 感染症医療 医療センターにおいて、市内で唯一の「第二種感染症指定医療機関」として、二類感染症や新型インフルエンザの受け入れに関して中核的な役割を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症が発生した場合は、市の対策部門と密接な連携を図りながら、患者の収容・治療に迅速に対応する。 ○ 二類感染症患者の長期入院等に備えた体制を確保するとともに、二類感染症に対応できる専門的な知識と技術を有する職員の育成に努める。 ○ 感染症発生時に備え、検査試薬や医薬品等の十分な数量の確保に努めるとともに、関係機関と連携して必要な対策・訓練を実施する。 	<p>(1) 感染症医療 医療センターにおいて、市内で唯一の「第二種感染症指定医療機関」として、二類感染症や新型インフルエンザの受け入れに関して中核的な役割を担う。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症患者の長期入院等に備えた体制の整備 ○ 二類感染症に対応できる職員の育成 ○ 検査試薬や医薬品の十分な数量の供給体制の整備 ○ 関係機関との連携による対策等の実施に向けた検討 ○ 感染症医療の提供体制の適正化に向けた検討

中期目標 (内容)	医療センターにおいて、「第2種感染症指定医療機関」としての役割を果たすこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 感染症医療</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、医療センターにおいて、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、積極的に外来診療・入院受入れを実施した。また、八幡病院においても、同様に外来診療・入院受入れに対応するなど、当機構の2病院が市内医療機関の新型コロナウイルス対策の中核的な役割を担った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症患者の長期入院等に備え、看護体制の見直しに着手した。 ○ 二類感染症に対応できる職員の育成のため、院内の感染対策研修会を実施するとともに、感染管理認定看護師の養成研修に職員を派遣した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策研修会を4月と7月に2回実施 ・ 感染管理認定看護師の養成研修に1名派遣 ○ 検査試薬や医薬品の管理体制を見直し、在庫管理や期限管理等により過剰在庫を削減した。 ○ 新型コロナウイルス対策について、北九州市と緊密に連携して対応した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターの対応 <ul style="list-style-type: none"> 2月7日に、市内で最初となる「帰国者・接触者外来」を開設。 2月13日から感染症病棟で入院患者の受入れを開始。 3月末までに、外来患者86名、入院患者31名を診療したほか、4月以降の入院受入れ拡大に向けて準備を進めた。 ・ 八幡病院の対応 <ul style="list-style-type: none"> 3月1日に、市内で2番目となる「帰国者・接触者外来」を開設。 3月末までに、外来患者18名を診療したほか、4月以降の入院受入れに向けて準備を進めた。 ○ 感染症医療の提供体制の適正化に向けて、感染症病棟の施設や設備上の問題点を含め、医療センターの老朽化対策について、機構内部での調査・研究に着手した。 	5	5	<p>医療センターは、二類感染症に対応できる職員の育成など年度計画を順調に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症について、第2種感染症指定医療機関として、外来及び入院患者の受入れについて、中心的な役割を果たした。加えて、未知の感染症への対応であったこと、感染拡大に対応するためにハード・ソフト両面での整備を進めたこと、病院スタッフの迅速な対応や尽力などを踏まえ、評価「5」とした。</p> <p>一方で、感染症医療等に対して市立病院機構のみが運営費負担金を受けており、新型コロナウイルス感染症対策の協力医療機関等から市立病院機構へ更なる対応が求められていることから、より一層の受入れや対応拡大、体制整備を望む。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (2) 周産期医療
--------------	---

中期計画	年度計画
(2) 周産期医療 医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供する。 ○ 胎児要因や母体要因による母体搬送の受け入れ、緊急分娩や異常分娩への小児科医の立ち会い、新生児外科疾患の手術などの診療を24時間体制で行うなど、ハイリスク妊娠やハイリスク新生児の診断・加療について北九州市とその近郊において中心的な役割を担う。	(2) 周産期医療 医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供する。 【令和元年度の取組み】 ○ 周産期医療の提供体制の適正化に向けた検討

<関連指標>

項目	医療センター	
	平成29年度実績	令和元年度実績
母体搬送件数	112件	98件
NICU受入患者数	2,009件	2,476件

※母体搬送やNICU受入は、市内4ヶ所の周産期医療機関の役割分担によって行われている。

中期目標 (内容)	医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供すること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 周産期医療</p> <p>医療センターにおいて、周産期母子医療センターとして、24時間体制でハイリスク妊娠や新生児に高度で専門的な医療を提供し、北九州地域における中心的な役割を担った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 周産期医療の提供体制の適正化に向けて、市の協力も得ながら関係機関との調整に取組み、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用の見直し（紹介患者の分娩対応）を行った。</p>	3	3	総合周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (3) 小児救急を含む救急医療
--------------	---

中期計画	年度計画
------	------

<p>(3) 小児救急を含む救急医療 八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、救急外来施設の充実等により、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する。 ○ 特に小児医療については、小児科外来の充実や小児集中治療室(PICU)の整備等により、初療から集中治療を要する場合まで24時間365日対応できる環境を整え、適切な医療を提供する。 ○ 救急患者に対する適切な医療を提供するため、救急科及び関連診療科の医師確保に努めるとともに、救急科専門医及び初期研修医の基幹研修施設等として、人材育成を通じて救急受入れ体制の強化に取り組む。 	<p>(3) 小児救急を含む救急医療 八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を果たす。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急外来施設の充実等 ○ 小児科外来の充実 ○ 小児集中治療室(PICU)・無菌室等の活用 <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急科及び関連診療科の医師確保 ○ 人材育成を通じた救急受入れ体制の強化 ○ 救急医療に関する専門人材の雇用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救命救急士の採用 ○ 救急車応需率の向上
--	--

<関連指標>

八幡病院			
項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
救急車応需率	96.3%	98.5%	94.0%
救急受入件数	3,567件	—	3,604件
救急患者手術件数	306件	—	342件
小児救急ウォークイン患者数	29,509人	—	30,402人

※ 救急車応需率 = 救急車受入数 ÷ 救急要請数。

※ 小児救急ウォークイン患者数は、救急車を利用せずに時間外に受診した患者数。

中期目標 (内容)	八幡病院において、「救命救急センター」及び「小児救急センター」としての役割を果たすこと。		
実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 小児救急を含む救急医療</p> <p>八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を担った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新病院において整備した救急外来、小児科外来、小児集中治療室（P I C U）、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P I C Uは、小児患者の夜間緊急入院等に活用（稼働率50%：延患者数 1,465人÷8床×366日） ・ 無菌室は、白血病等の小児がん患者を対象に活用（稼働率75%：延患者数 2,735人÷10床×366日） <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急科及び関連診療科の医師確保に向けて、病院長等による大学医学部等への働きかけを行った。 ○ 救急科専攻医1名、初期研修医3名のほか、他病院の研修医を受け入れ、人材育成を通じた救急医受入れ体制の強化を行った。 ○ 救急医療に関する専門人材として、救急救命士の来年度からの採用に取り組んだ。 ○ 循環器内科医師不足のため胸痛患者の受け入れを制限することとなったが、他の診療科の協力により、90%を超える救急車応需率を維持した。 	3	2	<p>八幡病院では、救急車応需率が低下〔令和元年度94.0%（平成29年度比▲2.3%）〕した。</p> <p>新病院に移転し、施設・設備は整備されたが、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うためには、循環器内科医を含む医師の確保が急務である。</p> <p>このため、年度計画を十分に実施できていないと判断し、評価「2」とした。</p> <p>院内体制の充実・強化に向けた取り組みの進捗を期待する。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (4) 災害時における医療
--------------	---

中期計画	年度計画
------	------

<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 八幡病院において、北九州市地域防災計画や北九州市医師会医療救護計画に基づき、市及び北九州市医師会の指示の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害発生時には院内に災害医療・作戦指令センター(DMOC)を設置し、関係機関と連携して医療支援を行う。 ○ 災害医療研修センター(DMEC)において、災害時に迅速かつ効果的な医療救護活動ができる人材を育成する。 ○ 災害医療コーディネーターが派遣される施設として、北九州地域の災害医療に対応する。 ○ 県内最大規模の屋上ヘリポートを活かし、広域から傷病等患者の受け入れを行うとともに、海上保安庁と連携し水難事故に対応する。 ○ 隣接する八幡薬剤師会と連携し、災害時に迅速かつ十分な薬品供給体制を構築する。 <p>イ 医療センター、八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害拠点病院として、災害発生時には24時間体制で災害疾病者の受け入れ及び搬出、被災病院、避難所・救護所等への支援を行うとともに、被災地に災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣を行う。 	<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 八幡病院において、北九州市地域防災計画や北九州市医師会医療救護計画に基づき、市及び北九州市医師会の指示の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たす。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害医療研修センターにおける人材育成 ○ 屋上ヘリポートの活用(広域からの患者受入れ) ○ 災害時の迅速かつ十分な薬品供給体制の構築に向けた取組み ○ DMOC訓練の継続的な実施 <p>イ 医療センター、八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たす。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の適切な対応
--	---

<関連指標>

項目		医療センター		八幡病院	
		基本計画	令和元年度	基本計画	令和元年度
日本DMAT登録 隊員数	医師	2人	1人	5人	6人
	看護師	2人	2人	4人	7人
	業務調整員	1人	2人	2人	4人
福岡県DMAT登 録隊員数	医師	2人	2人	5人	1人
	看護師	8人	6人	3人	3人
	業務調整員	6人	6人	3人	2人
DMAT等派遣回数(人数)		平成28年度 1回(4人)	平成28年度 3回(11人)	平成29年度 1回(3人)	平成29年度 1回(3人)
		令和元年度 0回(0人)	令和元年度 0回(0人)		

中期目標 (内容)	<p>ア 八幡病院において、市及び北九州市医師会との連携の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たすこと。</p> <p>イ 医療センター及び八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たすこと。</p> <p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 災害拠点病院の統括病院としての役割 八幡病院において、災害時における市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たすための取組みを行った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内で大規模なDMOC訓練を実施したほか、被災患者の搬出入体制等に関するマニュアルを整備した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨災害を想定した200人規模のDMOC訓練を7月に実施 ○ 災害時に備え、災害医療研修センターにおける人材育成について、調査・研究に着手した。 ○ 海上保安庁や市消防局ヘリコプターによる離着訓練を実施するとともに、患者受入れ等で屋上ヘリポートを適切に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上ヘリポート使用回数 4回 ○ 災害時の迅速かつ十分な薬品供給に向けて、3月に八幡薬剤師会と協定を締結した。 <p>イ 災害拠点病院としての役割 医療センター、八幡病院において、災害時の適切な対応により、「災害拠点病院」としての役割を果たすための取組みを実施した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に適切な対応を行うため、医療センターにおいて、職員向けの災害時情報配信システムを導入したほか、八幡病院において、大規模なDMOC訓練を実施した。 	3	3	<p>災害時における医療提供について、災害時の迅速かつ十分な薬品提供に向けて八幡病院と八幡薬剤師会が協定を締結するなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p>

<p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備する。</p> <p>○ 医療センターにおいては、国の基準に基づいて非常用電源や備蓄資材（食糧・飲料水、医薬品等）を確保するとともに、業務継続計画（BCP）を策定し、災害時には、病院機能を維持した上で、全ての患者に医療を提供できるよう努める。</p> <p>ただし、災害拠点病院としての機能を果たすためには、免震構造、ライフライン機能の維持、災害活動スペース等を備えることが望ましいが、現病院の施設、設備では十分でないことから、施設の老朽化対策に合わせて、将来的な施設や設備のあり方について検討していく。</p> <p>○ 八幡病院においては、国の基準に基づいて非常用電源や備蓄資材（食糧・飲料水、医薬品等）を確保し、災害時においても病院機能を維持するとともに、全ての患者に医療を提供できるよう、業務継続計画（BCP）を策定し、適切に運用する。</p>	<p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国の基準に基づく非常用電源や備蓄資材の整備 ○ 業務継続計画（BCP）の適切な運用 ○ 災害に対する施設や設備のあり方の検討 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国の基準に基づく非常用電源や備蓄資材の確保 ○ 業務継続計画（BCP）の適切な運用
--	--

<p>ウ 災害時における医療提供</p> <p>災害時における医療提供について、病院自身が被災することも想定し、対応策の準備に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上水は4日分を確保。雑用水は3日以上連続供給可能 ・ 電力は、自家発電機を2台設置しているほか、燃料用の重油タンクの増設を検討 ・ その他、食料3日分、飲料3日分、医薬品7日分、診療材料3日分のほか、医療ガスも確保 ○ 災害時に備え、業務継続計画（BCP）に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ BCP委員会を毎月開催し、3月に水害版のBCPを策定 ・ 災害時を想定したトリアージ訓練等を実施（延べ6回） ○ 災害対策を含め、医療センターの老朽化対策について、機構内部で調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応が困難となる課題の整理（地震による配管の破損、河川氾濫による主要設備の浸水等） <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上水は3.5日分、雑用水は3日分を確保。 ・ 電気は大容量自家発電機を設置。3日以上運転可能な重油を確保 ・ その他、食料3日分、飲料3日分、医薬品7日分、診療材料4日分のほか、医療ガスも確保 ○ 災害時に備え、業務継続計画（BCP）に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ BCP委員会の開催（11月）、BCP訓練の実施（3月） 			
---	--	--	--

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 各病院の特色を活かした医療の充実 (1) 医療センター
--------------	--

中期計画	年度計画
------	------

<p>(1) 医療センター</p> <p>ア がん医療について、地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療を提供する。</p> <p>また、がんゲノム中核拠点病院との情報共有・連携体制の構築に努め、がんゲノム医療連携拠点病院としてがん医療の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロボット支援下手術による低侵襲外科手術を実施するため、手術支援ロボットの導入を検討する。検討に当たっては、導入による効果を慎重に見極めることとする。 ○ 定位放射線治療や強度変調放射線治療等の高度な放射線治療を提供するため、リニアックの更新を検討する。 ○ 高精細な画像によって診断能力が向上し、より確かな診断を迅速に提供するため、磁気共鳴コンピュータ断層装置(MRI 3.0T)の増設を検討する。 	<p>(1) 医療センター</p> <p>ア がん医療について、地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療を提供する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんゲノム中核拠点病院との連携体制等の構築 ○ がんゲノム医療を適切に提供する体制の整備 ○ 手術支援ロボットの導入の検討 ○ リニアックの積極的な活用 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設の検討
--	--

<関連指標> 医療センター

項目	平成29年度実績	令和元年度実績
がん患者数	4,935人	4,869人
化学療法件数	17,140件	15,538件
放射線治療件数	12,179件	11,781件

<p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や家族の精神的なケアや生活面での不安・悩みに対応していくため、がん看護専門看護師及びがん分野の認定看護師の配置による「がん看護外来」の充実に取り組む。 <p>また、抗がん剤の副作用等への対策として、抗がん剤治療に関する専門知識と経験のある認定薬剤師を配置した「薬剤師外来」を開設するほか、医師・薬剤師・看護師のチーム医療により、がん患者や家族が意思決定しやすい</p>	<p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させる。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん看護外来の充実 ○ 緩和ケアセンターの開設 ○ 薬剤師外来の開設 ○ 医師・看護師等によるチーム医療の充実 ○ がん相談支援センターの充実
---	---

中期目標 (内容)	<p>ア がん医療について、「地域がん診療連携拠点病院」として、高度で専門的な医療を提供すること。</p> <p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させること。</p> <p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努めること。</p> <p>エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 医療センター</p> <p>ア 高度で専門的ながん医療の提供 地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療の提供に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんゲノム中核拠点病院である九州大学病院との連携体制を構築し、エキスパートパネル（治療方針を決定する専門家会議）を円滑に開始した。 ○ 一人ひとりのがん遺伝子変異に合わせた治療等を行う「がんゲノム医療」を適切に提供するため、保険適用開始に合わせて、速やかにがんゲノム医療体制を整備した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月にがんゲノムセンター及びがんゲノム外来を開設し、遺伝子パネル検査を開始 ・ 11月から院外患者の受入を開始 ○ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、10月から運用を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度の症例数は17例（泌尿器3例、外科上部6例、外科下部8例） ・ 医療関係者や市民を対象としたPRイベントを12月に開催 ○ 平成30年度に更新したりニアックの準備を完了し、9月からIMRT（強度変調放射線治療）を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月以降の1日平均治療件数は約40件 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設については、八幡病院との共同利用も想定しながら、費用対効果の調査・研究に着手した。 <p>イ がん患者や家族の支援機能の強化 患者や家族の精神的なケアや生活面での不安・悩みに対応していくため、がん患者や家族の支援機能を強化した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん分野の認定看護師を配置するなど、がん看護外来の充実に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来看護師1名にがん性疼痛看護認定看護師の資格を取得させ、がん分野の認定看護師数は合計14名に増加 ・ がん分野の認定看護師による介入事例は1,797件。 	3	3	<p>地域がん診療連携拠点病院として、更新したりニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の開始や、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入など高度で専門的な医療を提供するための取組みや、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を充実させる取り組みを進め、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>連携ネット北九州については、新規登録患者数が既に令和5年度の目標値を達成しており、評価できる。</p>

体制を整備するなど、がん患者や家族の支援機能の強化に取り組む。

- 医療センターの患者や家族だけでなく、他院の患者や家族の不安・悩み等の相談に応えるため、「がん相談支援センター」の周知に取り組むとともに体制強化に努める。

ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努める。

- がん医療における医療機関の役割分担を尊重しながら連携を推進していくため、医療従事者の資質向上に向けた情報提供や研修の開催等、地域全体のレベルアップの貢献に努める。
- インターネットでカルテの閲覧やCT・MRIの予約ができる「連携ネット北九州」の活用を促進する。
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に努める。

ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努める。

【令和元年度の取組み】

- 医療従事者の資質向上に向けた情報提供等
- がん医療における「連携ネット北九州」の活用促進
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及

<関連指標> 医療センター

項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
連携ネット北九州新規登録患者数	558件	700件	1,186件

<p>更なる事例の増加に向けて、リンパ浮腫外来や移植後フォローアップ外来の実施を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多職種による支援を行うため、「緩和ケアセンター」を4月に開設し、がん看護認定看護師等3名を配置して支援機能を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種の緩和ケアチームによるカンファレンスを毎月開催し、疼痛管理ラウンド（オピオイド回診）を8月から開始するなど、入院患者への介入事例を増加させた。 ・ 地域医療者との事例検討会（月1回）を開始したほか、緊急緩和ケア病床の利用について、地域の医療機関の登録を促進（19施設） ○ 抗がん剤の副作用等への対策として、抗がん剤治療に関する専門知識と経験のある認定薬剤師を配置した「薬剤師外来」を4月に開設した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ がん薬物療法と外来がん治療の認定資格を持つ薬剤師1名を配置。延べ患者1,772人に対応 ○ 医師・看護師等によるチーム医療を充実させるため、チーム医療に資する施設基準を複数取得するなど活動を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月に呼吸ケアチームの体制強化を実施（集中ケア認定看護師の配置、6分歩行試験の実施）、3月に認知症ケアチームの体制構築に着手 ○ 市民や患者の不安・悩み等の相談に応えるため、「がん相談支援センター」の体制を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に看護師1名を増員し、専門相談員3名とともに相談に対応 ・ 令和元年度の相談件数は1,086件（昨年度より199件増加） ・ スクリーニング時における患者への案内、市民センターや図書館へのチラシ配布等、がん相談支援センターの周知を推進 <p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携強化</p> <p>医療従事者への情報提供や研修の開催等を通じて地域全体のレベルアップに努めるなど、がん医療に関する地域医療機関との役割分担と連携を推進した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療従事者の資質向上に向けて、研修会を実施したほか、国や県が実施する研修会等について、地域の医療従事者への周知に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月に緩和ケア研修会を実施したほか、国のせん妄対応研修会に参加 ○ 「連携ネット北九州」の活用促進に向けて、医療機関の訪問やチラシ郵送等によるPR活動に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月末時点の活用医療機関数は150箇所（昨年度より53箇所増加） ○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に向けて、データ分析や関連部署の協議や運用フローマニュアル作成等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の実績は、肺がん16件、大腸がん10件、乳がん5件 		
--	--	--

エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

- 生活習慣病に対応するため、地域医療機関と連携し、糖尿病や脳卒中、循環器疾患、代謝疾患等に対応していくため、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師でのチーム医療が提供できるように体制を強化する。
- 膠原病や甲状腺疾患といった地域医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。
- 肩・肘関節疾患、スポーツ障害・脊椎疾患に対応するため、低侵襲で早期退院が可能な脊椎内視鏡手術等の脊椎手術を実施する。
- せん妄や認知症に対応するため、もの忘れ外来の開設や常勤精神科医の採用に取り組む。
- 合併症や新生児疾患の対応等、総合的医療を提供できるように常勤眼科医の採用に取り組む。
- 児童福祉法に基づく「助産施設」としての役割を担う。
- 市立病院として、市民の命と健康を守るセーフティネットの役割を果たすよう努める。

オ 医療センターにおいて、上記の医療を提供するための標榜診療科目及び病床数は、以下のとおりとする。

ただし、標榜診療科目及び病床の実際の運用については、今後の医療需要の変化や診療機能の向上等に合わせて柔軟に対応していく。

エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

【令和元年度の取組み】

- 生活習慣病に対応するための体制強化に向けた検討
- 膠原病や甲状腺疾患に関する医療の提供
- 脊椎内視鏡手術等の脊椎手術の実施
- せん妄や認知症に対応するための体制強化
- 合併症や新生児疾患の対応等に関する医療の提供

標榜診療科目	病床数
内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科	許可病床数 636

エ その他必要とされる医療の提供

その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。

【令和元年度の取組み】

- 生活習慣病への対応を強化するための取組みを進めた。
 - ・ 糖尿病内科を「内分泌・糖尿病内科」に変更し、内分泌疾患、肥満症の診療体制を強化。
- 膠原病、甲状腺疾患について、専門医による外来診療を継続実施した。
- 専門医による脊椎内視鏡手術を実施するとともに、手術効率向上等のため内視鏡セットP E Dを導入した。
- 常勤精神科医の獲得（新年度に1名採用）に努めるとともに、認知症ケアチームの体制構築等に取り組んだ。
- 合併症や新生児疾患に対応するため、近隣病院等の協力を得て夜間当直応援医師を増員するなど医療提供体制を充実させた。

※ 市民や患者に分かりやすく専門分野を示すため、以下のとおり標榜診療料の変更・新設を行った。

なお、以下の変更・新設は、病院の機能を変更するものではない。

（8月）

- ・ 糖尿病内科を内分泌・糖尿病内科に変更
- ・ 消化器外科、リハビリテーション科を新設

（12月）

- ・ 肝臓内科、血液内科、感染症内科、乳腺外科、内分泌外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科を新設

標榜診療科目	病床数
内科、肝臓内科、血液内科、感染症内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、乳腺外科、内分泌外科、消化器外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科	許可病床数 636

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 各病院の特色を活かした医療の充実 (2) 八幡病院
--------------	--

中期計画	年度計画
------	------

<p>(2) 八幡病院</p> <p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門性の高い小児科医の確保や小児集中治療室（P I C U）・無菌室の整備等により、「救急・集中治療」「児童虐待とその家族」「血液・腫瘍性疾患」「神経疾患・てんかん、医療的ケア児」に係る専門医療の充実と在宅医療の支援に取り組む。 ○ 小児科専門医の基幹研修施設として、人材育成を通じて、診療機能の強化に取り組む。 	<p>(2) 八幡病院</p> <p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図る。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門性の高い小児科医の確保 ○ 小児集中治療室（P I C U）・無菌室等の活用【再掲】 ○ 救急・集中治療等に係る専門医療の充実 ○ 在宅医療の支援 <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児科専門医の人材育成を通じた診療機能の強化
---	---

<関連指標>

八幡病院		
項目	平成29年度 実績	令和元年度 実績
小児科患者数（外来）	51,681人	51,412人
小児科患者数（入院）	34,156人	37,255人

<p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害を持つ小児患者等を一時的に預かる福岡県及び北九州市が実施主体の「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加する等支援の充実に取り組む。 <p>また、障害者やその家族が安心して生活が送れるよう医療面での支援を行う。</p>	<p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業への参加
---	---

中期目標 (内容)	<p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図ること。</p> <p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組むこと。</p> <p>ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供すること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2)八幡病院</p> <p>ア 小児医療の診療機能の充実 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】 ＜施設・設備の整備等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部医療機関からの派遣により、様々な分野において専門性の高い小児科医を確保した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 免疫・膠原病・循環器・消化器・肝臓病・腎・代謝（久留米大学）、内分泌・代謝（産業医科大学）、神経てんかん（聖マリア病院）、アレルギー（国立病院機構福岡病院） ○ 新病院において整備した小児集中治療室（P I C U）・無菌室等を適切に活用して医療を提供した。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ P I C Uは、小児患者の夜間緊急入院等に活用（稼働率50%：延患者数 1,465 人÷8床 × 366日） ・ 無菌室は、白血病等の小児がん患者を対象に活用（稼働率75%：延患者数 2,735 人÷10床 × 366日） ○ 救急・集中治療等については、専門性の高い小児科医の確保やP I C U等の活用等により、質の高い医療を提供した。 ○ 介護している家族の休息等を目的とした「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の受入れ等を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ レスパイト支援事業の受入れ実績は1件（4月・4日間）。 ・ また、同支援事業以外においても、支援を要するかかりつけ患児に対し、レスパイト入院の受入れを実施 <p>＜院内体制の充実・強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他病院の臨床研修医等を受入れて、将来を担う人材の育成に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 元年度の受入れ実績は小児科専門医1名、専攻医5名 <p>イ 障害者や家族への医療支援の充実 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護している家族の休息等を目的とした「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の受入れを行った。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ レスパイト支援事業の受入れ実績は1件（4月・4日間）。 ・ また、同支援事業以外においても、支援を要するかかりつけ患児に対し、レスパイト入院の受入れを実施 	3	3	<p>小児医療については、新病院において整備した施設・設備を活用した診療機能の充実や、「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の実施など障害を持つ小児患者や家族に対する医療面での支援の充実を図る取組みを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>なお、心不全センターの機能が果たせる体制構築や、ハイブリッド手術室を活用した医療の提供への取組みが必要である。</p>

ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

○ 消化器・肝臓病センターを内科・外科・放射線科等の医師、薬剤師及び看護師等で横断的に組織化し、生活習慣や食生活の変化に伴い急増する消化器・肝臓病疾患に対して最新・総合的な医療を提供する。

○ 心不全センターを内科・循環器内科・形成外科等の医師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師及び看護師等で横断的に組織化し、高齢化等に伴い急増する心不全患者に専門的な医療を提供するとともに、かかりつけ医療機関・介護施設・在宅との間を取り持つ役割を担うことで、地域全体で心不全患者を支援する体制を構築する。

○ アメリカでも注目され、実践されている Acute Care Surgery（外傷急性期外科）の北九州市の中心となるべく、血管造影装置とCTを備えたハイブリッド手術室の機能を駆使して、最先端の医療を提供する。

さらに、外傷・形態修復・治療センターを外科・形成外科・整形外科等の医師、リハビリスタッフ及び看護師等で横断的に組織化し、外傷やその他の形態異常に対し機能的・整容的な再建を行うことで、患者のQOL（生活の質）の回復を目指す。

○ 市立病院として、市民の命と健康を守るセーフティネットの役割を果たすよう努める。

エ 八幡病院において、上記の医療を提供するための診療科目及び病床数は、以下のとおりとする。

ただし、標榜診療科目及び病床の実際の運用については、今後の医療需要の変化や診療機能の向上等に合わせて柔軟に対応していく。

標榜診療科目	病床数
内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科	許可病床数 350

ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

【令和元年度の取組み】

○ 消化器・肝臓病センターの積極的な活用に向けた検討

○ 心不全センターの積極的な活用に向けた検討

○ ハイブリッド手術室の活用
・ 外傷急性期外科医療の提供

○ 外傷・形態修復・治療センターの積極的な活用に向けた検討

ウ その他必要とされる医療の提供

その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。

【令和元年度の取組み】

- 医師、看護師、薬剤師等で横断的に組織化した消化器・肝臓病センターにおいて、ハイブリット手術室を活用した医療を提供した。
- 心不全センターは、循環器内科医の不足により十分な機能が果たせていないものの、医師をはじめとする医療スタッフで心臓リハビリテーションに取り組んだ。
- ハイブリッド手術室を適切に活用し、外傷急性期外科医療の提供に努めた。
 - ・ 令和元年度の使用実績は54件
- 外傷・形態修復・治療センターにおいて、外科・整形外科・形成外科の医師、リハビリスタッフ及び看護師等の組織横断的なチームを編成して多方向からの集約的治療を実施した。

※ 市民や患者に分かりやすく専門分野を示すため、以下のとおり標榜診療科の変更・新設を行った。なお、以下の変更・新設は、病院の機能を変更するものではない。

(8月)

- ・ リハビリテーション科、臨床検査科を新設

(12月)

- ・ 内視鏡外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科を新設

標榜診療科目	病床数
内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、内視鏡外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科	許可病床数 350

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (1) 人材の確保・育成
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療従事者の養成機関との連携を図るとともに、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努める。</p> <p>○ 医師については、大学等関係機関との連携強化や教育研修を充実させ、医師の負担軽減に向けて医師事務作業補助者を配置する等、医師が働きやすい環境づくりを行う。 また、女性医師が安心して就業の継続や復職ができる環境の整備を行う。</p> <p>○ 看護師については、計画的に安定した優秀な人材を確保するため、看護学校の学生に対する充実した教育や実習の提供等により、卒業生の入職率を高める。 また、看護師が看護業務に専念できる環境を整備するため、看護補助者の確保に努めるとともに、看護師の事務作業をサポートする職の配置やチーム医療の推進等に取り組む。 さらに、認定看護師等の資格取得に際して、十分にバックアップするとともに、その専門性が発揮できるような勤務体制を構築する。</p> <p>○ 医療技術職については、柔軟な採用制度の下、経験者を含めた多様な職種の人材確保に努める。 また、資格取得等の奨励・支援を行い、学会発表等の参加機会を確保できるよう配慮する。</p> <p>○ 事務職員については、プロパー化を進めるとともに、医療マネジメントができる事務職員を育成するため、院内教育の充実を図り、資格取得の支援に加え、セミナーや学会発表等の学習機会を提供する。 また、事務職員の総合力を強化するため、定期的な部署間の異動等、計画的な育成に取り組む。</p>	<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療従事者の養成機関との連携を図りながら、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><全職種></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リクルート活動の強化 <p><医師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務作業補助者の増員 ○ 女性医師の就業環境の整備に向けた調査・研究 <p><看護師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護業務に専念できる環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護補助者の確保に向けた取組みの強化 ・ 事務作業サポート職の配置に向けた検討 ○ 資格取得支援のあり方の検討 ○ 柔軟な勤務体制の調査・研究 <p><医療技術職></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経験者を含めた多様な職種の人材確保 ○ 学会発表等の参加機会確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得の奨励、支援制度の構築に向けた調査・研究 <p><事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロパー化の推進 ○ 医療マネジメントができる事務職員の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内教育体系の構築に向けた調査・研究 ○ 事務職員の総合力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成方針、異動方針の作成に向けた調査・研究

中期目標 (内容)	<p>ア 医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めること。</p> <p>イ 特に、医師の確保に当たっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実等に努めること。</p> <p>ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、先進的な事例や取組を習得できる教育研修制度を充実させること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療スタッフの確保、職場環境の整備 医療従事者の養成機関と連携しながら、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】 ＜全職種＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 優秀な医療スタッフの確保に向けて、採用募集ツールを充実させたほか、就職説明会への参加や学校訪問によってリクルート活動を強化し、多様な職種の職員採用活動を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リクルート活動として、就職説明会への参加（2回）、看護学校訪問（2回）等を実施 ・ 採用試験は、医療技術職・一般事務（1回）、看護師・助産師（4回）実施 <p>＜医師＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を選考の上増員した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターに2名配置（7月） ・ 八幡病院は選考継続（2名配置予定） ○ 女性医師の就業環境の整備に向けて、働き方改革の取組みと並行して調査・研究に着手した。 <p>＜看護師＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師が看護業務に専念できる環境の整備に向けて、事務作業サポート職（病棟クランク）を選考の上増員したほか、看護補助者の確保に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師・助産師の随時採用により、元年度中に看護師36名、助産師3名を採用 ・ 医療センターと八幡病院に病棟クランクを2名ずつ配置（令和2年4月） ・ 看護補助者の随時採用を実施し、元年度中に24名を採用 ○ 認定看護師や特定行為研修の派遣計画を作成したほか、資格取得支援のあり方について、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。 ○ 時短勤務の導入など柔軟な勤務体制の導入に向けて、働き方改革の取組みと並行して調査・研究に着手した。 	3	3	<p>医療スタッフの確保や職場環境の整備などを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>令和元年度において調査・研究に着手した項目については、令和2年度以降において、制度や仕組みの構築に期待したい。</p>

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
看護実習受入数	医療センター	350人(5校)	282人
	八幡病院	249人(4校)	261人

イ 特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努める。

- 大学医局等からの医師確保、病院運営への協力等に向けて、関係大学との連携強化の仕組みづくりに取り組む。
- 病院機能の特性を生かした魅力ある臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実、指導体制の整備により、病院の将来を担う医師の育成に努める。

イ 特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努める。

【令和元年度の取組み】

- 関係大学との連携強化の仕組みづくり
- 臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実
- 病院の将来を担う医師の育成

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
専門医資格取得件数	医療センター	167件	105件
	八幡病院	95件	121件
指導医資格取得件数	医療センター	140件	246件
	八幡病院	62件	42件
初期臨床研修医	医療センター	7人	10人
	八幡病院	4人	4人
専攻医	医療センター	23人	22人
	八幡病院	10人	9人

<医療技術職>

- 柔軟な職員採用により、経験者を含めた多様な職種の人材を確保した。
 - ・ 医療センターでは、薬剤師4名、臨床検査技師5名、臨床放射線技師5名、臨床工学技士2名、栄養士2名、医療ソーシャルワーカー3名、理学療法士6名、作業療法士2名を採用（令和2年4月）
 - ・ 八幡病院では、薬剤師9名、臨床検査技師7名、臨床放射線技師9名、臨床工学技士5名、管理栄養士7名、医療ソーシャルワーカー10名、理学療法士7名、作業療法士3名を採用（令和2年4月）
- 資格取得支援制度の構築に向けて、働き方改革の取組みと並行し、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。

<事務職員>

- 診療情報管理士や医療事務職員を採用するとともに、市派遣職員を減少させるなど、事務職員のプロパー化を推進した。
 - ・ 来年度は、診療情報管理士、医療事務職員、システムエンジニアなど17名を採用（令和2年4月）
- 事務職員の教育制度や育成・異動方針について、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。

イ 大学医局との連携強化等

特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努めた。

【令和元年度の取組み】

- 関係大学との連携強化に向けて、理事長、病院長等による訪問活動を積極的に実施した。
 - ・ 九州大学、産業医科大学、福岡大学、久留米大学等を延べ47回訪問
- 医療センター、八幡病院ともに、臨床研修や専門研修プログラムを充実させたほか、臨床研修医の募集定員拡大に向けて関係機関等への働きかけを行った。

ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得支援する制度の充実に努めるとともに、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度を充実させる。

- 医療センターにおいては、習熟レベルに応じた研修プログラムの充実と教育担当者の配置、研修体系の一元管理の整備など計画的な人材育成の推進と知識・技術の向上に取り組む。

特に、がん看護に特化した専門看護師の育成と高い臨床推論力と病態判断力を持って急性期医療、地域医療に貢献できる特定行為研修を修了した認定看護師の育成に取り組む。

- 八幡病院においては、今後の高齢化の進展を見据え「慢性心不全看護」「慢性呼吸器疾患看護」の認定看護師資格の取得を目指すとともに、「感染管理」「皮膚・排泄ケア」の認定看護師資格の取得者の増員に取り組む。

また、院内では、看護師の専門性向上のため、経験年数別・役割別・職種別の研修を実施するとともに、他職種についても新たな研修制度の構築に取り組む。

ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得を支援する制度の充実に努めるとともに、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度を充実させる。

【令和元年度の取組み】

- 医師を含む医療スタッフの資格取得を支援する制度の構築に向けた調査・研究

- 教育研修制度の構築に向けた調査・研究

<医療センター>

- ・ 習熟レベルに応じた研修プログラムの検討
- ・ 看護師に対する教育担当者の配置
- ・ 研修体系の一元管理の整備
- ・ がん看護に特化した専門看護師の育成
- ・ 特定行為研修を修了した認定看護師の育成

<八幡病院>

- ・ 慢性心不全看護の認定看護師資格の取得に向けた取組み
- ・ 感染管理の認定看護師資格の取得者の増員に向けた取組み
- ・ 皮膚・排泄ケアの認定看護師資格の取得者の増員に向けた取組み
- ・ 看護師の経験年数別等の研修の実施

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
専門看護師	医療センター	0人	0人
	八幡病院	0人	0人
認定看護師	医療センター	20人	21人
	八幡病院	13人	17人
診療情報管理士数	医療センター	5人	11人
	八幡病院	3人	2人

<p>ウ 資格取得支援制度等の充実</p> <p>医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得を支援する制度や、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度の充実に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療スタッフの資格取得を支援する制度の構築に向けて、働き方改革の取組みと並行して調査・研究に着手した。 ○ 機構としての教育研修制度の構築に向けて、他病院の制度を参考に、調査・研究に着手した。 <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムの検討を実施 ・ 看護単位ごとに教育担当者を設定し、新人の育成状況や育成方針等を看護部全体で共有 ・ 研修体系の整備に向けて研修計画の策定や研修管理委員会の設置準備を実施 ・ 所属看護師（1名）が、がん性疼痛看護認定看護師の課程を修了 ・ 特定行為研修を含む認定看護師の育成に向けて次年度の研修派遣（3名）を決定 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性心不全看護の認定看護師資格の取得に向けて、看護師1名を教育機関へ派遣 ・ 感染管理の認定看護師資格の取得者が1名増員となり、院内の感染管理対策が向上 ・ 皮膚・排泄ケアの認定看護師資格の取得者を病棟に1名配置 ・ クリニカルラダーの導入に向けた検討 			
---	--	--	--

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (2) 医療の質の確保・向上
--------------	---

中期計画	年度計画
------	------

(2) 医療の質の確保、向上 ア 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組む。	(2) 医療の質の確保、向上 ア 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組む。 【令和元年度の取組み】 ○ 早期離床・リハビリテーションの実施 ○ 重点診療領域のセンター化に向けた協議
--	---

<関連指標>

医療チーム編成状況（平成 29 年度及び令和元年度実績）

医療センター	八幡病院
緩和ケア	
認知症ケア	認知症ケア
感染防止対策	感染防止対策
栄養サポート	栄養サポート
医療安全管理	医療安全管理
呼吸ケアサポート	呼吸ケアサポート
褥瘡（じょくそう）管理	褥瘡（じょくそう）管理

イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組む。

イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組む。

【令和元年度の取組み】

- パス件数、パス適用率の向上
- パスの積極的な活用のための仕組みづくり

<関連指標>

項 目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
クリニカルパス件数	医療センター	185件	229件
	八幡病院	127件	218件
クリニカルパス適用率	医療センター	22.4%	26.6%
	八幡病院	18.1%	20.5%

※ クリニカルパス適用率 = クリニカルパス適用入院患者数 ÷ 新入院患者数

中期目標 (内容)	<p>ア 医療の多様化や複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組むこと。</p> <p>イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組むこと。</p> <p>ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備、更新等を計画的に進めること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 医療の質の確保・向上</p> <p>ア チーム医療の推進</p> <p>医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、医師、看護師、理学療法士等の多職種がチームとして連携し、集中治療室における早期離床・リハビリテーションに取り組んだ。 ○ 重点診療領域については、患者や家族にスムーズに医療が提供できるよう、センター化に向けて取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、「緩和ケア」のセンター化を実施 ・ 八幡病院では、「小児血液腫瘍・細胞移植」のセンター化に向けて診療体制を充実 <p>イ クリニカルパスの活用等良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、パス件数、パス適用率の向上に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、産科31件、外科5件、耳鼻咽喉科1件の見直しを実施。産婦人科で7件の新規パスを作成 ・ 八幡病院では、小児科、形成外科、泌尿器科で新規パスの作成に着手 ○ パスの積極的な活用に向けて、各病院において、医療スタッフへのアンケートを実施したほか、パス委員会で改善点や見直し等を協議した。 	3	3	<p>「チーム医療」の推進や高度な医療機器の整備、更新を進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進める。

- 医療センターにおいては、患者への低侵襲な手術を推進するため、手術支援ロボットの導入を検討するとともに、「リニアック」を活用し、患者への負担が少ない放射線治療を推進する。
- 八幡病院においては、ハイブリッド手術室の機能を駆使して、最先端の医療を提供するとともに、小児集中治療室（P I C U）・無菌室を活用し、小児重症患者の診療体制を強化する。

エ その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケータ（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組む。

- 医療センターにおいては、がんゲノム医療連携拠点病院として、十分にその機能を発揮していくため、国際規格 I S O 1 5 1 8 9 の認定を目指す。

ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進める。

【令和元年度の取組み】

<医療センター>

- リニアックの積極的な活用【再掲】
- 手術支援ロボットの導入の検討【再掲】
- 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設の検討【再掲】

<八幡病院>

- ハイブリッド手術室の活用【再掲】
- 小児集中治療室（P I C U）・無菌室等の活用【再掲】

エ その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケータ（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組む。

【令和元年度の取組み】

<医療センター>

- 第三者機関による評価制度の活用
- クリニカルインディケータの活用に向けた検討
- 国際規格 I S O 1 5 1 8 9 の認定に向けた取組み

<八幡病院>

- 第三者機関による評価制度導入に向けた検討

<p>ウ 高度医療機器の計画的な整備・更新等医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度に更新したりニアックの準備を完了し、9月からIMRT（強度変調放射線治療）を開始した。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月以降の1日平均治療件数は約40件 ○ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、10月から運用を開始した。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度の症例数は17例（泌尿器3例、外科上部6例、外科下部8例） ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設については、八幡病院との共同利用も想定しながら、費用対効果の調査・研究に着手した。 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハイブリッド手術室を適切に活用し、外傷急性期外科医療の提供に努めた。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度の使用実績は54件 ○ 新病院において整備した小児集中治療室（PICU） <ul style="list-style-type: none"> ・ 無菌室等を適切に活用して医療を提供した。【再掲】 ・ 稼働率は、PICU50%、無菌室75% <p>エ 第三者機関による評価制度の活用</p> <p>その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケータ（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院機能評価の中間評価に向けて、令和2年度から、改善取組状況の進捗確認を行う。 ○ クリニカルインディケータの活用に向けて、データ管理や役割分担等の準備に取り組んだ。 ○ がんゲノム医療連携拠点病院として、国際規格ISO15189の認定に向けた調査・研究に着手した。 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院機能評価制度の導入に向けて、医療センターを参考に調査・研究に着手した。 		
--	--	--

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (3) 医療安全の徹底
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡病院において、市保健所と連携して地域感染対策を実践するため、地域医療機関での院内感染発生時の対応支援や地域医療従事者への教育・研修等を行う。 ○ 院内ラウンドや医療安全研修会等を実施し、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象の予防に取り組む。 ○ インシデント・アクシデントレポートを適切に分析し、再発防止に努める。 ○ 国内外における感染情報の収集に努める。 	<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じる。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内ラウンドや医療安全研修会等の実施 ○ インシデント・アクシデントレポートの分析 ○ 国内外における感染情報の収集 ○ 地域医療従事者への教育・研修等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域感染対策研修センターの開設に向けた取組み ○ 機構全体の危機管理体制の構築

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
研修等実施回数	医療センター	60回	56回
	八幡病院	74回	59回
インシデント・アクシデント レポート提出回数	医療センター	1,450回	1,424回
	八幡病院	1,069回	1,252回

中期目標 (内容)	安全で安心な医療を提供するため、医療事故、院内感染等の医療の安全を脅かす事象に関する情報収集、分析を行い、適切な予防策を講じること。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡病院において、地域感染対策研修センターを4月に開設したほか、市保健福祉局と連携し、地域の医療関係者や行政職員を対象に、新型コロナウイルスを含めた感染防止対策研修を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策研修会（2回）、感染対策セミナー（3回）、市職員向け感染対策研修会（3回）を実施 ○ 各病院において、院内ラウンドや医療安全研修会を定期的実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医療安全管理室等のラウンドを毎月実施、医療安全研修を4回開催 ・ 八幡病院では、医療安全管理室等のラウンドを毎月実施、医療安全研修を4回開催 ○ 各病院において、医療事故等の再発防止に向けて、インシデント・アクシデントレポートの分析を適切に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、7例のインシデントに多職種参加のRCA分析（根本原因分析）を実施。分析結果を防止対策に反映しマニュアルや手順を変更 ・ 八幡病院では、転倒転落インシデントの分析にあたりオカレンス（特に重篤な予期せぬ有害事象）報告の導入を検討 ○ 各病院において、関係機関等からの感染情報を収集し、職員に情報提供を行った。特に、新型コロナウイルス感染症については、国内外の最新情報を収集し、機構全体での共有に努めた。 ○ 機構全体の危機管理体制の構築に向けて、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。 	3	3	医療安全に関連して、年度計画を順調に実施していることから評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (4) 医療に関する調査・研究
--------------	--

中期計画	年度計画
(4) 医療に関する調査・研究 高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組む。	(4) 医療に関する調査・研究 高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組む。 【令和元年度の取組み】 ○ 治験・研究医療の推進 ○ 治験等の推進に向けた体制整備

<関連指標>

項目		平成29年度実績	令和元年度実績
治験等実施件数	医療センター	96件	109件
	八幡病院	35件	31件

※ 治験等実施件数には臨床研究実施件数及び公的調査研究件数を含む。

中期目標 (内容)	高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査、研究に積極的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(4) 医療に関する調査・研究</p> <p>高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、臨床研究等の受託を拡充するための準備に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、初めての医師主導治験（呼吸器内科）を承認した。 ・ 八幡病院では、企業からの奨学寄附金の受入体制の準備を進めた。 ○ 治験・臨床研究の推進に向けて、治験・臨床研究に関する施設や設備を充実させたほか、専任職員の確保など体制強化に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターにおいて、治験等に必要な施設や設備の拡充を実施 ・ 専任職員として、治験コーディネーター担当係長の公募を実施し、新年度からの採用を決定 ・ 機構全体で治験・臨床研究を推進するため、医療センターへの「臨床研究推進室」の設置を決定 ・ 医療センターと八幡病院の治験審査委員会（IRB）の一本化に向けて準備を実施 	3	3	<p>医療に関する調査・研究に積極的に取り組むため体制強化を進めるなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

中期目標 (項目)	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>4 市民・地域医療機関からの信頼の確保</p> <p>(1) 患者サービスの向上</p>
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>① 患者目線での病院運営の徹底</p> <p>ア 患者や家族のニーズを的確に把握し、市民から信頼される病院を目指す。</p> <p>また、患者中心の医療提供を行うため、接遇研修を抜本的に見直すなど、患者目線に立ったサービスの提供に努める。</p> <p>特に、看護については病室やベッドサイドで看護記録やカンファレンス等を行うセル看護方式やパートナーシップ・ナーシングシステム(PNS)の導入等、可能な限り患者に寄り添う看護の提供に取り組む。</p> <p>イ 職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努める。</p> <p>患者満足度調査の手法も含めて抜本的に見直すとともに、患者ニーズを的確に把握し、課題等に対して適切な改善策を講じる。</p> <p>また、現在、特に不満の多い「受付・診察の待ち時間」の短縮に向けて、各病院において以下の取組を進める。</p> <p>医療センターにおいては、診療予約時間に基づいて中央処置室での採血や採尿の受付時間を設定するなどの混雑緩和の取組を進める。</p> <p>八幡病院においては、自動精算機・診察待ち順番表示設備の導入、問診・脈拍測定等の診察前実施に取り組む。</p>	<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>ア 患者目線での病院運営の徹底</p> <p>市民から信頼される病院を目指して、患者や家族のニーズを的確に把握するとともに、職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><患者ニーズの把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者満足度調査手法の抜本的な見直しに向けた検討 <p><患者サービスの改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 接遇研修の抜本的な見直しに向けた検討 ○ 患者に寄り添う新たな看護方式の検討・試行 ○ 受付・診察の待ち時間の短縮に向けた取組み <p><新たな患者サービスの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティアの導入に向けた検討 ○ 外国人患者の受入れに向けた検討

中期目標 (内容)	① 患者目線での病院運営の徹底 ア 患者や家族のニーズを的確に把握し、市民から信頼される病院を目指すこと。 イ 職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努めること。
	② 快適な院内環境の整備 ア 施設や設備面での快適性を向上させること。 イ 患者や家族の利便性を向上させること。
	③ 患者や市民への情報提供 ア 診療内容、治療実績等の情報発信に積極的に取り組むこと。 イ 市民の健康増進に向けた取組を進めること。

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>ア 患者目線での病院運営の徹底 市民から信頼される病院を目指して、患者や家族のニーズを的確に把握するとともに、職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><患者ニーズの把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や家族のニーズを的確に把握するため、患者満足度調査手法の見直しに向けて、他病院の手法を参考に調査・研究に着手した。 <p><患者サービスの改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 接遇研修の見直しに向けて、働き方改革の取組みと並行して、他病院の制度等を参考に調査・研究に着手した。 ○ 各病院の看護部において、セル看護方式やPNSの導入に向けて、マニュアル作成やモデル病棟での試行を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、セル看護方式とPNSをモデル病棟で試行実施 ・ 八幡病院では、PNSをモデル病棟で試行実施 ○ 各病院において、院内のレイアウト変更や設備等の整備により、受付・診察の待ち時間の短縮に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、受付のレイアウト変更、逆紹介検索用タブレット端末の設置、外来機能分化に関する掲示等を実施。これらにより、外来待ち時間や病院滞在時間が短縮。 ・ 八幡病院では、新病院で自動精算器や診察待ち順番表示設備を導入したほか、入院予約患者の事前問診を実施。これらにより、受付・診察の待ち時間に関する患者の不満が軽減。 <p><新たな患者サービスの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな患者サービスとして、ボランティアの導入や外国人患者の受入れに向けて、他病院の事例を参考に、調査・研究に着手した。 	3	3	患者ニーズの把握や院内環境の整備、診療内容や治療実績等の情報発信などへ取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。

<関連指標>

項目	医療センター		八幡病院	
	平成29年度 実績	令和元年度 実績	平成29年度 実績	令和元年度 実績
接遇研修回数	23回	17回	10回	10回
研修参加延人数	274人	115人	260人	122人
患者満足度 調査結果	入院	3.9点	4.2点	4.4点
	外来	3.6点	3.5点	4.1点

※ 病院で入院・外来ごとにアンケートを実施。各項目について5段階で評価

② 快適な院内環境の整備

ア 院内環境の改善により施設・設備面での快適性の向上に取り組む。

○ 医療センターにおいては、消化器疾患全般について、内科・外科が連携し、よりシームレスで総合的な診療を提供する消化器センターの開設や、婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性専用病棟の開設等病棟機能の集約化に取り組む。

○ 八幡病院においては、患者や家族がくつろげる中庭やファミリールーム等新たに整備した施設・設備を適切に活用し、より一層の快適性と利便性の向上に取り組む。

イ 患者や家族の利便性の向上に向けて、自動精算機や診察待ち順番表示設備の導入待ち時間短縮に向けた取り組みを推進する。

また、入退院センター等について、メディカルソーシャルワーカー、看護師、事務職員等の人員配置を強化するなど、患者やその家族の支援機能の強化に取り組む。

イ 快適な院内環境の整備

院内環境の改善により、院内体制の充実・強化や施設・設備の整備等により、患者や家族の快適性や利便性の向上に取り組む。

【令和元年度の取組み】

<院内体制の充実・強化>

- 消化器センターの開設に向けた検討
- 女性専用病棟の開設
- 入退院センターの体制強化

<施設・設備の整備等>

- 中庭やファミリールームの活用
- 自動精算機や診察待ち順番表示設備の導入に向けた取組み

イ 快適な院内環境の整備

院内環境の改善に向けて、院内体制の充実・強化や施設・設備の整備等に取り組んだ。

【令和元年度の取組み】

<院内体制の充実・強化>

- 患者や家族の利便性向上のため、医療センター5階南病棟において、消化器系の専門病棟として「消化器センター」を平成31年2月に開設した。
- 患者のニーズに対応するため、医療センター6階北病棟において、乳腺外科、産婦人科、泌尿器科による「女性専用病棟」を平成31年2月に開設した。
- 患者サービスの向上に向けて、各病院において、入退院センターの体制強化に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、院内にプロジェクトチームを設置して検討を行い、多職種が介入して患者支援を行う「患者支援センター」を10月に開設
 - ・ 八幡病院では、4月に入院センターを試行的に開設し、業務改善しながら運用を実施

<施設・設備の整備等>

- 患者や家族の快適性・利便性向上に向けて、八幡病院の中庭やファミリールームを活用し、イベントや交流会を開催した。
 - ・ ファミリールームにおいて季節に応じたイベントを開催(月1回)、中庭でのイルミネーションの実施
- 患者サービスの向上に向けて、外来診察待ち時間を短縮するため、医療センターにおいて、順番表示設備の導入の検討を行った。
※すでに、自動精算機は両病院、順番表示設備は八幡病院に導入済み

③ 患者や市民への情報提供

ア 診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組む。

- ホームページや広報誌を通じて、診療内容や治療実績等を積極的に情報発信するとともに、SNS等のソーシャルメディアを積極的に活用する。

イ 市民の健康増進に向けた取り組みを進める。

ウ 患者や市民への情報提供

診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組むとともに、市民の健康増進に向けた取り組みを進める。

【令和元年度の取り組み】

- 診療内容や治療実績等の情報発信
- ホームページの見直し
- 各種PRツールの整備
- ソーシャルメディアの活用に向けた取り組み
- 市民向け健康講座等の充実

<関連指標>

項目		平成29年度実績	令和元年度実績
広報誌等発行回数	医療センター	8回	5回
	八幡病院	8回	8回
市民向け健康講座等開催件数	医療センター	13回	20回
	八幡病院	30回	35回

※ 市民向け健康講座等開催件数は、市民向けに実施した公開講座や出前講演等。

<p>ウ 患者や市民への情報提供</p> <p>診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組むとともに、市民の健康増進に向けた取り組みを進めた。</p> <p>また、機構全体の広報機能強化に向けて、機構本部への広報専任組織を設置する準備を進めた。</p> <p>【令和元年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や市民への情報提供の充実に向けて、各病院において、パンフレットやホームページで診療内容や治療実績等の情報発信に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、広報誌「輪」を年4回発行。ホームページで最新情報を随時更新 ・ 八幡病院では、広報誌「やはた病院ニュース」を年4回発行。ホームページで最新情報を随時更新 ○ 機構全体で総合的な情報発信を行うため、4月にホームページを開設。CMS（コンテンツマネジメントシステム）方式を採用し、随時最新情報の発信に努めた。 ○ 機構の理念等を示すシンボルマークを策定したほか、各病院において、各診療科の医師や診療内容・実績等を紹介するパンフレットやリーフレットを製作した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構本部では、11月に職員の見解を反映した基本理念とシンボルマークを策定 ・ 医療センターでは、各診療科の医師や診療内容・実績等を紹介するパンフレットを7月に製作 ・ 八幡病院では、各診療科の医師や診療内容・実績等を紹介するパンフレットを10月に製作。呼吸器内科の取り組みを紹介したリーフレットを10月に製作 ○ 診療内容等を広く発信するため、各種のソーシャルメディアを活用して情報発信に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、フェイスブック、インスタグラムを活用して病院の取り組みや診療科の紹介等の情報を発信 ・ 八幡病院では、フェイスブックを活用して小児医療等の情報を発信 ○ 市民の健康増進に向けて、各病院において、企業・団体への出前講演や市民公開講座を積極的に開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、心臓病や下肢静脈瘤などをテーマにした市民公開講座を9回実施したほか、企業・団体向けの出前講演を11回実施 ・ 八幡病院では、肝炎や変形性股関節症などをテーマにした市民公開講座を2回実施したほか、企業・団体向けの出前講演を33回実施 			
---	--	--	--

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 市民・地域医療機関からの信頼の確保 (2) 地域の医療機関等との連携
--------------	---

中期計画	年度計画
------	------

<p>(2) 地域医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指す。</p> <p>○ 地域医療機関へのヒアリングやアンケートの実施により、信頼の確保に努めるとともに、医療連携室の機能強化により、急性期医療を要する患者の地域医療機関からの紹介と慢性・軽症患者の地域医療機関への逆紹介を推進する。</p> <p>○ 福岡県地域医療構想調整会議での議論や地域の医療機関のニーズを踏まえ、適切な機能分化・役割分担の構築に努める。</p>	<p>(2) 地域医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指す。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 地域医療機関へのヒアリングやアンケートの実施</p> <p>○ 医療連携室の機能強化</p> <p>○ 紹介率・逆紹介率の向上</p> <p>○ 近隣病院との機能分化・役割分担に向けた検討</p>
--	--

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
紹介率	医療センター	86.6%	90.0%	85.2%
	八幡病院	67.1%	70.0%	63.6%
逆紹介率	医療センター	68.0%	80.0%	81.3%
	八幡病院	96.7%	100.0%	82.3%

※ 紹介率 = 紹介患者数 ÷ (初診患者数 - 救急車搬送初診患者数 - 時間外初診患者数) × 100

※ 逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ (初診患者数 - 救急車初診搬送患者数 - 時間外初診患者数) × 100

<p>中期目標 (内容)</p>	<p>ア 地域の医療機関のニーズと役割を把握し、地域の医療機関に信頼される病院を目指すこと。 イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たすこと。 ウ 医療センターと八幡病院の機能分化や連携を深めること。</p>		
実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 地域の医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割の把握等 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指して取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療機関のニーズを把握するため、各病院において、診療所へのヒアリングやアンケートの実施に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、延べ約1,509件の医療機関を訪問して苦情や要望を収集したほか、地域医療機関へのアンケートを実施して課題等を把握 ・ 八幡病院では、延べ約71件の地域医療機関を訪問したほか、アンケートの実施に向けた検討に着手 ○ 地域の医療機関等との連携強化に向けて、各病院の医療連携室において、専任スタッフを増員するなど、令和2年度からの体制強化を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医療ソーシャルワーカー4名、嘱託看護師3名、看護師長・事務係長・事務員各1名、計10名増員 ・ 八幡病院では、4月より看護師・社会福祉士を2名増員し、5月より事務係長を1名増員 ○ 紹介率と逆紹介率の向上に向けて、各病院において、近隣医療機関への訪問・要請活動等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、地域医療機関への訪問(延べ427件)、紹介患者の救急受入れ拡大、返書管理システムの運用等を実施 ・ 八幡病院では、地域医療機関への訪問(延べ71件)等を実施 ・ 医療センターでは、診療所訪問活動の効果等により紹介率(前年度82.1%)が増加、逆紹介率(前年度81.7%)は横ばい ・ 八幡病院では、新病院効果による初診患者の増加等により、紹介率(前年度65.0%)、逆紹介率(前年度95.4%)ともに減少 ○ 福岡県地域医療構想の実現に向けて、近隣病院との機能分化・役割分担を進めていくため、地域医療機関の意見・要望の集約に努めた。 	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>地域の医療機関等との連携推進に向け、医療連携室の体制強化を進めるなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>紹介率については、医療センター(平成29年度:86.6%→令和元年度:85.2%)、八幡病院(平成29年度:67.1%→令和元年度:63.6%)とともに減少していることから、目標に向けて紹介率を高めていく必要がある。</p>

イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たす。

- 地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用を通じて地域医療を担うかかりつけ医等に対する支援を行う。
- 大腿骨近位部骨折や脳卒中については、地域医療機関との連携の下に策定した地域連携クリティカルパス（北九州標準モデル）の普及に努める。
また、がんについては、福岡県地域連携クリティカルパスの普及に努める。
- 地域の医療機関を対象に地域連携会を中心とした情報交換体制の充実を図る。

イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たす。

【令和元年度の取組み】

- 医療機器の共同利用等の実績の向上
- かかりつけ医等に対する支援
- 「連携ネット北九州」の活用促進【再掲】
- 地域連携クリティカルパスの普及
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及【再掲】
- 地域連携会を中心とした情報交換体制の充実

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
共同利用件数 (高額医療機器)	医療センター	1, 433件	1, 500件	1, 274件
	八幡病院	798件	900件	710件
共同利用件数 (開放病床)	医療センター	51件	60件	35件
	八幡病院	74件	100件	71件
地域医療従事者 研修実施回数	医療センター	12回	12回	9回
	八幡病院	12回	20回	17回
登録医療機関件数	医療センター	615件	620件	588件
	八幡病院	221件	230件	220件
地域医療連携会議 参加人数	医療センター	640人	—	545人
	八幡病院	377人	—	393人

イ 地域医療支援病院としての役割

地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たすよう努めた。

【令和元年度の取組み】

- 医療機器の共同利用等の実績向上に向けて、地域医療機関への訪問やホームページ、広報誌等を通じた広報活動等に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、地域医療機関の訪問や広報活動に加え、外部委員の参加による運営委員会の開催（6月）、連携ネット北九州のデモンストレーション（7月）等を実施
 - ・ 八幡病院では、地域医療機関の訪問や広報活動に加え、地域医療支援病院運営委員会において高度医療機器のプレゼンテーション（10月）等を実施
- かかりつけ医に対する支援の充実にに向けて、各病院において、紹介患者の優先的な対応や医療従事者向けの研修会の開催等に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、紹介患者の予約診療時間枠を拡大したほか、連携ネット北九州による予約システムの導入を検討
 - ・ 八幡病院では、在宅療養後方支援病院の推進のため、かかりつけ医等の登録を進めたほか、医師や看護師による医療従事者向けの研修会を実施
- 「連携ネット北九州」の活用促進に向けて、医療機関の訪問やチラシ郵送等によるPR活動に取り組んだ。【再掲】※医療センター
 - ・ 3月末時点の活用医療機関数は150箇所（昨年度より53箇所増加）
- 地域連携クリティカルパスの普及に向けて、パス連絡協議会への参加、関係医療機関とのカンファレンスの実施等に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、脳卒中・大腿骨骨折パス連絡協議会への参加、院内への周知等を実施
 - ・ 八幡病院では、脳卒中・大腿骨骨折パス連絡協議会への参加、関係医療機関への訪問・カンファレンス等を実施
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に向けて、データ分析や関連部署の協議や運用フローマニュアル作成等に取り組んだ。【再掲】※医療センター
 - ・ 今年度の実績は、肺がん16件、大腸がん10件、乳がん5件
- 地域医療機関との連携強化に向けて、各病院において、地域医療機関を対象とした医療連携会を開催した。
 - ・ 医療センターでは、7月に「医療連携の会」を開催（参加者312名）
 - ・ 八幡病院では、10月に「地域医療連携会」を開催（参加者292名）

ウ 市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進する。

- 医療提供機能の相互支援の充実に向けて、各病院の専門分野に関する知識の習得のため、医師を含めた多職種における人事交流を推進する。
- 特に、市立病院の専門分野においては、相互に患者の紹介等を優先的に行う。
- 高度医療機器の共同利用や、診療・検査等における医療提供機能の相互支援に取り組む。

ウ 市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進する。

【令和元年度の取組み】

- 医師を含めた多職種における人事交流の推進
- 相互の専門分野における優先的な患者の紹介
- 高度医療機器の共同利用に向けた取組み
- 診療・検査等における医療提供機能の相互支援
- TV会議システムの導入・活用
- 電子カルテの共通化に向けた検討

<p>ウ 医療センターと八幡病院の連携</p> <p>市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、理事長のリーダーシップの下、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療提供機能の相互支援の充実に向けて、多職種における人事交流（令和2年4月異動）に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師は、医療センターを退職する副院長（循環器内科）を八幡病院副院長として再雇用 ・ 看護師は、医療センターから八幡病院へ副看護師長1名、八幡病院から医療センターに看護師1名、医療センターから看護専門学校へ看護師長1名・主査1名、八幡病院から看護専門学校へ主査1名 ・ 診療放射線技師は、八幡病院から医療センターへ係員1名 ・ 理学療法士は、医療センターから八幡病院へ副技師長1名 ○ 各病院の専門分野において、相互に優先的な患者紹介に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターから八幡病院への患者紹介は26件 ・ 八幡病院から医療センターへの患者紹介は33件 ○ 各病院が保有する高度医療機器を有効活用するため、相互の共同利用等について、機構内部の検討に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の共同利用に向けて、患者の移送方法等の諸課題について検討を開始 ○ 診療・検査等における医療提供機能の相互支援を推進するため、医師の診療応援や臨床放射線技師の交流研修の実施に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 八幡病院の小児科から医療センターの新生児科に派遣（1名、週5日） ・ 医療センターの循環器内科と心臓血管外科から八幡病院の循環器内科に派遣（各1名、週1日） ・ 八幡病院の診療放射線技師を医療センターに研修派遣（1名、2カ月） ○ 機構内部の迅速な情報共有や連携促進に向けて、機構本部・医療センター・八幡病院の3箇所に、遠隔でのカンファレンスや会議が可能となるTV会議システムを8月に導入した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構本部・医療センター・八幡病院の3者による経営本部会議、理事長ミーティング、事務幹部会議等に活用 ・ 医療センターと八幡病院の医師や看護師等による相互カンファレンスや会議等に活用 ○ 電子カルテの共通化について両病院が合意するとともに、近い将来の共通化に向けて、外部の専門家の協力の下、調査・研究に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテの共通化に関する効果や課題を整理したほか、機構内部の意思決定機関として「ICT戦略本部」の設置を決定 			
--	--	--	--

<p>中期目標 (項目)</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上</p>
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>
<p>1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上</p> <p>政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組む。</p> <p>また、病床利用率の数値目標の達成に向けて、診療料毎に数値目標を設定して全てのスタッフで共有するなど目標管理を徹底するとともに、地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入によって患者の確保に努めるほか、ベッドコントロールの効率化による病床利用率の向上に取り組む。</p> <p>○ 医療センターにおいては、クリニカルパスの整備、早期リハビリテーションの実施等によって在院日数の短縮に取り組むとともに、副院長をトップとして病棟看護師長がベッドコントロールを行う病床マネジメントのための管理体制を構築する。</p> <p>また、外来診察の完全予約制の導入を検討する等、地域医療機関との連携強化により、急性期医療を必要とする患者の受入と急性期を脱した患者の地域医療機関へのシフトを促進することにより、患者の確保に努める。</p> <p>○ 八幡病院においては、DPCデータ等に基づくベッドコントロールの効率化や多職種による退院支援体制の強化に取り組む。</p> <p>また、小児救急・小児総合医療センターにおける専門医療の充実や、地域のニーズを踏まえた消化器・肝臓病センターや心不全センターの運営等、市民に求められる医療の提供を通じて、患者の確保に努める。</p>	<p>1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上</p> <p>政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組む。</p> <p>また、病床利用率の数値目標の達成に向けて、診療料毎に数値目標を設定して全てのスタッフで共有するなど目標管理を徹底するとともに、地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入によって患者の確保に努めるほか、ベッドコントロールの効率化による病床利用率の向上に取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><目標管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療料毎の数値目標の設定 (目標管理の徹底) ○ 稼働実績を踏まえた病床配置の見直し <p><マネジメント体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合診療サポートセンターの設置・運営に向けた取組み ○ 年末年始対策の検討 <p><患者確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急患者の積極的な受入れ ○ 外来診察の完全予約制の導入の検討

<p>中期目標 (内容)</p>	<p>政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組むこと。</p>		
<p>実績及び法人自己評価</p>		<p>北九州市評価</p>	
<p>取組、成果、課題、評価理由等</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>	<p>評価理由・特記事項等</p>
<p>1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上</p> <p>政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組んだ。また、病床利用率の数値目標の達成に向けて、診療料毎に数値目標を設定して全てのスタッフで共有するなど目標管理を徹底するとともに、地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入によって患者の確保に努めたほか、ベッドコントロールの効率化による病床利用率の向上に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】 <目標管理> ○ 機構全体または各病院において、数値目標の設定、達成状況の確認や原因分析など、目標管理の徹底に取り組んだ。 ・ 機構全体の毎月の収支目標を設定し、毎月の経営本部会議において月次決算を検証、原因分析等を実施 ・ 各病院において、毎月の収支状況や目標達成状況を確認して原因分析を行ったほか、診療料ごとの経営ヒアリング（各2回開催）によって目標達成状況の分析等を実施 ○ 経営効率を高めるため、各病院において、稼働状況を踏まえた病床配置の見直しを行った。 また、新型コロナウイルス対策では、入院受入れの拡充に備えるなど弾力的な病床運営に努めた。 ・ 医療センターでは、経営効率を高めるため、集中治療室の施設基準を3月に変更（ICUからHCUへ）。 また、新型コロナウイルス対策では、一般病床（4階北病棟）への入院受入れの準備を実施。 ・ 八幡病院では、新病院効果を得るため、4月にフルオープンを実施。8月には内科入院患者の減少を踏まえた病床配置の見直しを実施。</p> <p><マネジメント体制> ○ 病床利用率の向上に向けて、各病院において、ベッドコントロールの効率化や入退院支援体制の充実に取り組んだ。 ・ 医療センターでは、電子カルテ上でベッドの空き状況等を可視化できるシステムを構築し、9月から運用を開始。また入退院を総合的にサポートする「患者支援センター」を9月に開設。 ・ 八幡病院では、看護部を中心にベッドコントロールの効率化を徹底</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>年度計画等に掲げられている項目について取り組みを進めているものの、病床利用率や入院延べ患者数、診療単価等について、予算と乖離が生じていることから、年度計画を十分に実施できていないと判断し、評価「2」とした。</p>

<関連指標及び目標>

医療センター			
項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
病床利用率(全体)	75.5%	85.5%	80.6%
〃(感染症・周産期除く)	80.5%	92.0%	85.9%
外来患者数	264,264人	258,005人	263,982人
入院患者数	161,253人	163,349人	154,033人
手術件数	3,709件	—	3,934件
平均在院日数	14.7日	14.7日	13.8日

八幡病院			
項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
病床利用率(全体)	73.8%	89.6%	80.8%
外来患者数	130,191人	139,748人	130,381人
入院患者数	84,345人	102,330人	92,315人
手術件数	1,469件	—	1,899件
平均在院日数	10.2日	10.2日	11.2日

※ 病床利用率=1日当たり入院患者数÷病床数×100

※ 病床利用率の実績については、医療センター585床、八幡病院313床をベースに算定している。

※ 病床利用率の目標については、これまでの各病院の稼働状況等を踏まえ、医療センター522床、八幡病院312床をベースに、平成30年度決算見込の収支をもとに算定しており、今後の病床数や収支の状況によって数値が変動する可能性がある。

<p>○ 9 連休となった年末年始には、臨時的に診療日を設けるなど地域の医療体制の維持に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、12月30・31日、1月3日に放射線治療および化学療法を実施 ・ 八幡病院では、救急車受入れや小児救急診療など24時間の救急医療体制を維持 <p><患者確保></p> <p>○ 病床稼働率向上及び患者確保のため、救急患者の積極的な受入れに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、平日の日勤帯における救急受入れの拡大を7月から実施 ・ 八幡病院では、不応需事例の検証により、応需率の向上を促進 <p>○ 医療センターにおいて、地域の診療所との機能分化を進めるため、外来診療の完全予約制の導入に向けて、他病院の取組みを参考に、調査・研究に着手した。</p>			
--	--	--	--

<p>中期目標 (項目)</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 収入増加・確保対策 (2) 適切な診療報酬の確保</p>
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>
<p>(2) 適切な診療報酬の確保</p> <p>ア 複雑化する診療報酬制度に対応し、診療行為に対する診療報酬を適切に確保するため、専門的知識・経験を有する事務職員をプロパー職員として計画的に採用するとともに、診療情報管理士の資格取得等による事務職員の育成に努めるなど、医療事務の処理能力の強化に取り組む。</p> <p>イ 全職員が診療報酬制度への理解を深めるため、経営状況や診療報酬制度等に関する職員説明会等の実施に取り組むとともに、医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、診療機能の強化につながる施設基準の取得等、効果的な経営戦略を企画・立案するため、法人全体の事務処理体制の強化に取り組む。</p> <p>また、診療報酬の請求漏れや減点の防止に努めるとともに、未収金の発生防止や効果的な回収策を講じるなど、適切な診療報酬の確保に向けて不断に取り組む。</p> <p>特に、医療費徴収にあたっては、納付資力があるにもかかわらず、納付しない滞納者に対して法的措置などを厳正に実施する。</p>	<p>(2) 適切な診療報酬の確保</p> <p>複雑化する診療報酬制度に対応し、診療報酬を適切に確保するため、法人全体の医療事務の処理能力の強化に取り組む。</p> <p>また、全職員が診療報酬制度への理解を深めるための取組みを進めるとともに、未収金の効果的な回収策の検討など、適切な診療報酬の確保に向けて不断に取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><事務処理能力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療事務プロパー職員の計画的な採用 ○ 資格取得等、事務職員の育成のあり方についての調査・研究 <p><診療報酬の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 査定減比率の向上に向けた取組み ○ 施設基準等の積極的な取得 ○ 診療報酬制度等に関する職員説明会等の実施 <p><未収金対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的な未収金回収策の検討 ○ 医療費徴収率の向上に向けた取組み

中期目標 (内容)	ア 複雑化する診療報酬制度に対応するため、医療事務の処理能力を強化すること。 イ 全職員が診療報酬制度への理解を深めるとともに、診療機能の強化につながる施設基準の取得を積極的に検討するなど、適切な診療報酬の確保に向けて不断に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 適切な診療報酬の確保</p> <p>複雑化する診療報酬制度に対応し、診療行為に対する診療報酬を適切に確保するため、専門的知識・経験を有する事務職員をプロパー職員として計画的に採用するとともに、診療情報管理士の資格取得等による事務職員の育成に努めるなど、医療事務の処理能力の強化に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><事務処理能力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務処理体制を強化するため、事務系職員について、診療報酬制度や医療事務等の専門的知識や経験を有する人材を中心に、プロパー職員の採用に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度採用の係長職以上の職員として、事務課長1名、事務係長1名、システム担当係長2名、治験コーディネーター係長1名の採用を決定 ・ 来年度採用の一般職員として、病院事務経験者7名、医療事務経験者2名、診療情報管理士4名、システムエンジニア2名、新卒者2名の採用を決定 ○ 事務職員の能力向上に向けて、各病院において、所属職員を外部研修に積極的に参加させた。また、病院経営に関する資格取得など、事務職員の育成について、他病院の取組みを参考に、調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医療事務研修会（大阪・1名）、病院経営戦略セミナー（福岡・4名）、診療情報管理研究研修会（福岡・2名）等に参加 ・ 八幡病院では、診療情報管理研究研修会（福岡・2名）、日本診療情報管理学会学術大会（大阪・1名）、医療経営セミナー（福岡・2名）等に参加 <p><診療報酬の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 査定減比率の向上に向けて、各病院において、診療報酬請求に精通した職員の確保・育成に努めるとともに、査定結果の分析や対策に関する勉強会の開催等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、査定対策チームによる診療料や病棟スタッフとの勉強会を実施（延べ4回） ・ 八幡病院では、査定内容の分析や対策について、医師を中心に情報共有を実施。 ○ 診療報酬の適切な確保に向けて、各病院において、施設基準の積極的な取得に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、7月に精神疾患診療体制加算、在宅患者訪問・看護指導料等、10月に医師事務作業補助体制加算、総合評価加算、入退院支援加算等、11月に病棟薬剤業 	3	3	<p>医療事務プロパー職員の採用など診療報酬の確保に向けた取り組みを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>なお、基本計画策定時と比べて、医療センターにおいて査定減比率が高まっている（平成29年度：0.69%→令和元年度：0.75%）ことから、査定減率の向上に努める必要がある。査定減率の向上は即効性のある収益確保策であり、プロパー職員や事務職員の育成、医療スタッフの診療報酬制度への理解を深める取り組みを着実に進める必要がある。</p>

<関連指標及び目標>

項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
医療センター			
市派遣職員比率	100%	39.1%	65.5%
査定減比率	0.69%	0.49%	0.75%
医療費徴収率	99.7%	99.8%	99.7%
八幡病院			
市派遣職員比率	100%	52.6%	87.5%
査定減比率	0.51%	0.43%	0.46%
医療費徴収率	99.4%	99.5%	99.7%

※ 市派遣職員比率 = 市派遣職員数（事務職員） ÷ 正規事務職員数

※ 査定減比率 = 査定減金額 ÷ 診療報酬請求金額

※ 医療費徴収率 = 収入予定額（現年分 + 滞納繰越分） ÷ 診療報酬請求額（現年分 + 滞納繰越分）

<p>務実施加算等、2月に認知症ケア加算1、3月にダヴィンチ手術等を取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八幡病院では、6月に栄養サポートチーム加算、神経学的検査、小児入院医療管理料1等、8月に運動器リハビリテーション料1初期加算等、9月に認知症ケア加算2等、12月に遺伝カウンセリング加算、1月に体外衝撃波碎石破碎術等を取得 <p>○ 医療スタッフの診療報酬制度への理解を深めるため、各病院において、診療報酬制度等に関する職員向けの勉強会や説明会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、新人職員向け勉強会、診療報酬勉強会等を延べ5回実施 ・ 八幡病院では、診療報酬改定説明会を延べ2回実施 <p><未収金対策></p> <p>○ 未収金の発生防止や効果的な回収策について、機構本部と両病院による検討を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無保険者に対する保険加入手続きや生活保護受給等のサポートを実施 ・ 高額医療制度等の自己負担軽減制度対象者に対する限度額認定証取得のサポートを実施 ・ 新たな対策として、夜間救急患者の保険加入情報等の確認を徹底するよう見直し <p>○ 各病院において、専任職員を配置し、未払者を早期に把握するとともに、滞納整理事案全件に対し、滞納者への催告等（文書や電話による催告を数回実施し、連絡が取れないもの等は臨戸訪問）を適切に実施した。</p> <p>また、未収金回収の法的措置に関する調査・研究に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、保証人に対する催告等も含め、現年度分を中心に債権回収を実施 ・ 八幡病院では、現年度分の高額債権を中心に債権回収を実施 ・ 過年度の回収見込みの少ない未収金については、弁護士による債権回収代行サービスの活用についての検討に着手 		
---	--	--

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 経費節減・抑制対策 (1) コスト節減の推進
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(1) コスト節減の推進</p> <p>ア コスト節減に向けて、地方独立行政法人制度の特長を活かした柔軟で多様な契約制度の導入に取り組む。</p> <p>契約制度については、医療機器等の調達保守一体契約の導入、器械設備や業務委託の複数年契約の推進、医薬品や診療材料調達に係る価格交渉の徹底等に取り組む。</p> <p>また、コスト節減に向けて、後発医薬品の採用品目数の増加に取り組む。</p> <p>イ 法人全体で業務の抜本的な見直しに取り組む。</p> <p>コスト削減に向けて、専任職員の配置による調達部門における体制強化や医療機器管理への専門技術者の配置等の組織体制の強化に取り組むとともに、清掃や警備等の業務委託や物品調達等については、医療センターと八幡病院で契約の一本化を推進する。</p>	<p>(1) コスト節減の推進</p> <p>コスト節減に向けて、地方独立行政法人制度の特長を活かした柔軟で多様な契約制度の導入に取り組むとともに、法人全体で業務の抜本的な見直しに取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 組織体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調達部門への専任職員の配置 ○ 柔軟で多様な契約制度の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器等の調達保守一体契約の導入 ・ 器械設備や業務委託の複数年契約の推進 ○ 医薬品や診療材料調達に係る価格交渉の徹底 ○ 後発医薬品採用率の向上 ○ 医療センターと八幡病院の契約一本化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託業務の一本化 ○ 委託業務の見直し

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
後発医薬品 採用率	医療センター	84.0%	90.0%	91.7%
	八幡病院	86.7%	90.0%	86.9%

※ 後発医薬品採用率 = $\frac{\text{採用後発医薬品の数量}}{\text{後発医薬品が存在する医薬品の数量}} \times 100$

中期目標 (内容)	ア 地方独立行政法人制度の特長を活かした契約制度の導入に取り組むこと。 イ 法人全体で業務の抜本的な見直しに取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) コスト節減の推進</p> <p>コスト節減に向けて、地方独立行政法人制度の特長を活かして、組織体制の強化や柔軟で多様な契約制度の導入等に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医薬品や診療材料の調達コスト節減に向けて、調達部門に専任職員を配置したほか、医療機器の保守業務を効率化するため、各病院に臨床工学技士を配置するなど、組織体制の強化に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間から調達係長1名、職員1名を採用し、医療センター事務局に配置。専任職員により、八幡病院も含め、医療機器や診療材料等の価格交渉やSPD業務の見直し等を実施。 ・ 臨床工学技士は、医療センターに4名増員、八幡病院に1名増員し、医療機器の保守業務の効率化を実施。 ○ 高額医療機器の購入にあたっては、保守複数年一体契約、器械設備や業務委託の複数年契約など、新たな契約制度の導入に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高額医療機器については、コスト削減と事務の簡素化を目的に、購入と保守の一体契約を原則として見直しを実施。 ・ 複数年契約については、医療センター3件、八幡病院2件の業務委託で実施。 ○ 機構本部と両病院事務局が連携し、医薬品や診療材料の調達について、価格交渉の徹底に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品については、MRPベンチマークシステムを活用し、両病院での価格統一を実施。 ・ 診療材料については、SPD事業者への全面委託を見直し、機構職員が価格交渉を主導できる仕組みへの変更を検討。 ○ 機構本部と両病院の薬剤課が連携し、後発医薬品使用割合の向上に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量ベースでは、80%以上を維持できるよう後発品への置き換えを実施 ・ 高額医薬品（抗がん剤や造影剤等）については、後発品への置き換えを実施 ○ 委託業務について、コスト削減や事務効率化の観点から、医療センターと八幡病院の契約一本化を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度は7業務で実施。令和2年度分として10業務での実施を準備。 ○ 医療機器の保守業務について、最適な契約方法への見直しを行ったほか、業務委託について、コスト削減に向けた調査・検討を行った。 	3	3	<p>調達部門への専任職員の配置、契約制度や業務委託の見直しなどへの取り組みを進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>医療センターにおいて、高額医薬品の使用増加等により材料費は増加しているが、後発医薬品採用率については、令和5年度の目標値を達成していることは評価できる。</p>

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 経費節減・抑制対策 (2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備</p> <p>ア 医療機器等については、モニタリングによる稼働状況の把握等により、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努める。</p> <p>○ また、医療機器等の計画的かつ効率的な運用に向けて、臨床工学技士等を配置した医療機器管理部門の設置、医療機器等の配置状況や稼働率を可視化できるシステムの導入等を検討する。</p> <p>イ 医療機器をはじめとする高額な機械設備や情報システム等の新規導入や更新にあたっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組む。</p> <p>○ 磁気共鳴コンピュータ断層撮影装置(MRI)やX線コンピュータ断層撮影装置(CT)等の高額な機械設備や電子カルテ等の情報システム等については、中長期の新規導入・更新計画を作成する。</p> <p>また、電子カルテの共通化をはじめ、両病院で採用する医療機器等の規格の統一により、医療の質や患者サービスの向上及びコスト削減につながる取組みを推進する。</p>	<p>(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備</p> <p>医療機器等については、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努めるとともに、高額な機械設備や情報システム等の新規導入や更新にあたっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 医療機器等の稼働状況の把握</p> <p>○ 医療機器等の計画的かつ効率的な運用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器管理部門の設置の検討 ・ 稼働状況等の可視化システムの導入の検討 <p>○ 中長期の新規導入・更新計画の作成</p> <p>○ 両病院における医療機器等の規格統一化の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテの共通化に向けた検討【再掲】

中期目標 (内容)	ア 医療機器等については、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努めること。 イ 医療機器をはじめとする高額な機械設備、情報システム等の新規導入及び更新に当たっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備</p> <p>医療機器等については、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努めるとともに、高額な機械設備や情報システム等の新規導入や更新にあたっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高額医療機器等について、機構全体での稼働状況の把握・情報共有に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の稼働状況について、各病院の状況を比較し、機構全体で共有する仕組みを検討 ○ 医療機器等の計画的かつ効率的な運用に向けて、各病院に臨床工学技士を増員したほか、医療機器管理部門の設置や、稼働状況の可視化システムの導入について検討を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の管理については、各病院とも臨床工学課、放射線技術課、臨床検査技術課に分散しており、包括的な管理部門の設置を検討 ・ 稼働状況の可視化システムについては、八幡病院では「ME機器管理システム」を導入しており、医療センターへの導入について検討。 ○ 各両病院における医療機器等の新規導入や更新について、今後10年間の計画を作成した。 ○ 新たに購入する医療機器等については、機構全体で情報共有し、可能な限り両病院での規格統一を検討する仕組みを構築した。 ○ 電子カルテの共通化について両病院が合意するとともに、近い将来の共通化に向けて、外部の専門家の協力の下、調査・研究に取り組んだ。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテの共通化に関する効果や課題を整理したほか、機構内部の意思決定機関として「ICT戦略本部」の設置を決定 	3	3	<p>医療機器等の稼働状況の把握などに着手しており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>なお、医療機器等の稼働率をさらに高める取り組みが必要である。</p>

<p>中期目標 (項目)</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 自主的な業務運営体制の構築 (1) マネジメント体制の確立</p>
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>
<p>(1) マネジメント体制の確立</p> <p>ア 病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的なマネジメント体制の確立に向けて、理事長等の役員で構成する理事会の他、両病院の幹部職員で構成する経営本部会議等を設置する。 ○ 法人本部と各病院の権限と責任を明確にし、組織目標、部門別目標の設定による目標管理を徹底する。 ○ 病院経営を担う法人本部・事務局組織の体制強化に向けて、企画経営部門の機能強化、病院経営に精通した民間人材の登用や医療経営コンサルタントの活用、ジョブローテーションによる幹部人材の育成に取り組む。 <p>イ 各病院において、院長以下、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組む。</p> <p>また、組織風土づくりに当たっては、特に、病院運営に関する医師の意識改革に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院全体の組織目標、診療科や課単位の部門別目標を明確にし、全ての職員が組織や部門別の目標を踏まえた目標管理ができるよう実効性のある目標管理体制の構築に取り組む。 ○ 病院職員全体の情報共有に向けて、法人全体の事業概要等の作成により、病院運営や経営状況等を全ての職員に周知するとともに、職員による病院運営に関する提言等が法人・病院幹部に伝わるような仕組みづくりに取り組む。 	<p>(1) マネジメント体制の確立</p> <p>ア 病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理事長ミーティングの開催 ○ 経営本部会議等の設置 ○ 組織目標、部門別目標の設定による目標管理を徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構ミッション工程表の策定 ・ 経営指標の管理・分析手法の見直し ○ 法人本部・事務局組織の体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院経営に精通した民間人材の登用 ・ 医療経営コンサルタントの活用 ・ 幹部人材の育成のあり方についての調査・研究 <p>イ 各病院において、院長以下、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機構全体の基本理念・シンボルマーク等の策定 ○ 機構全体の広報戦略の策定 ○ 医師の意識改革 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療科や課単位の部門別目標の設定 ・ 診療科別ヒアリング等の実施 ○ 病院職員全体の情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体の事業概要等の作成

中期目標 (内容)	<p>ア 病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築すること。</p> <p>イ 各病院においては、院長以下、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組むこと。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) マネジメント体制の確立</p> <p>ア 主体的・機動的な意思決定システムの構築病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重要な経営課題等を経営トップが情報共有するため、機構の常勤役員である理事長、機構本部長、両院長による「理事長ミーティング」を頻回に開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長ミーティングの開催実績は12回 ○ 理事会に次ぐ意思決定機関として、機構幹部職員で構成する「経営本部会議」を設置し、理事会上程議案の審議、病院運営に関する重要事項や経営状況の情報共有等を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営本部会議は6月以降毎月1回開催 ○ 機構が取り組む事業について、工程表を作成して進捗管理を開始したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有するなど、目標管理の徹底に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画や年度計画等に掲載した具体的事業の達成状況を「機構ミッション工程表」として整理し、進捗状況の自己評価を実施。また、重点事業や評価の低い事業を対象に経営幹部によるヒアリングを実施 ・ 月次の数値目標を設定し、毎月の経営本部会議で月次決算を報告。目標の達成状況を確認し、原因分析や課題解決策を協議 ○ 病院事務局に病院経営に精通した民間人材を登用したほか、専門性の高い分野においては医療経営コンサルタントを活用するなど、事務部門の体制強化に努めた。 <p>また、幹部人材の育成については、他病院の取組みを参考に、調査・研究に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院経営に精通した民間人材を公募し、2名を病院事務局に配置（医療センター・経営企画課長、八幡病院医事係長） ・ 令和2年度の配置に向け、民間人材を公募し、八幡病院事務局に2名（経営企画課長、医療連携推進担当係長）の採用を決定 ・ 放射線機器の保守コスト削減、委託業務全般のコスト削減、電子カルテ共通化の可能性調査等、専門性の高い分野で経営コンサルタントを活用 	3	3	<p>法人設立初年度であり、マネジメント体制の構築は重要な事項である。理事長ミーティング、経営本部会議等の設置、組織目標、部門別目標の設定、本部・事務局組織の体制強化などに取り組む、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>新たに構築した、主体的かつ機動的な意思決定システムにより、業務運営改善及び効率化が求められる。</p>

--	--

イ 機構全体の組織風土づくり

機構全体または各病院において、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組んだ。

【令和元年度の取組み】

- 機構の一体感を醸成するため、機構全体の基本理念・シンボルマークを策定した。
 - ・ 6月に機構全体の基本理念を決定。基本理念を基に外部の専門家にシンボルマークのデザイン制作を依頼。4案について職員による予備投票を行った後、11月の経営本部会議で最終選考・決定
- 機構全体の統一した広報活動を行うため、機構内部の協議を進めるとともに、必要な広報施策は適切に実施した。

また、広報戦略の策定を含めた広報機能の強化に向けて、専任職員を配置する準備を進めた。

 - ・ 機構全体として実施した広報施策は、ホームページの開設、基本理念・シンボルマークの策定、職員広報誌の発行、グループウェアの充実等
- 各病院において、診療科や課単位の部門別目標を設定した上で、個別にヒアリングを行うなど、医師をはじめとする職員の意識改革に努めた。
 - ・ 診療科別ヒアリングは、理事長出席の下、医療センター・八幡病院ともに夏季・冬季の2回ずつ実施。
- 機構職員全体の情報共有に向けて、職員広報誌の発行、グループウェアの充実等に取り組んだ。
 - ・ グループウェア「サイボウズ」を活用し、職員向けの情報をきめ細かく配信。
 - ・ 法人全体の事業概要の試作版として、令和2年度新規採用職員向け資料を作成（3月）

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 自主的な業務運営体制の構築 (2) 職員の経営意識の向上
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(2) 職員の経営意識の向上</p> <p>ア 職員の経営感覚を高めるため、病院を取り巻く医療環境の変化や経営状況をリアルタイムで提供し、計画の達成状況の周知に取り組むほか、職員を対象とした外部講師による講演会の開催などにより職員の経営意識の向上に努める。</p> <p>イ 職員自らが業務改善に積極的に取り組めるよう、職員提案制度の充実、アンケート・ヒアリングの実施、職員と病院幹部の交流の促進等により職員の声を聴く取り組みや、職員の提案を実現させるための仕組みづくりに取り組む。</p>	<p>(2) 職員の経営意識の向上</p> <p>職員の経営感覚を高めるとともに、職員自らが業務改善に積極的に取り組めるよう、職員の経営意識の向上に努める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院運営や経営状況等の職員への提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員向け広報誌の製作 ・ 外部講師による講演会の開催 ○ 職員と病院幹部の交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員提案制度の充実 ・ アンケート・ヒアリングの実施

中期目標 (内容)	ア 職員の経営感覚を高めるための取組を進めること。 イ 職員自らが業務改善に積極的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 職員の経営意識の向上</p> <p>職員の経営感覚を高めるとともに、職員自らが業務改善に積極的に取り組めるよう、職員の経営意識の向上に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院運営や経営状況等を職員に分かりやすく周知するため、職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組んだ。 また、最新の医療技術を学ぶため、外部講師による講演会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員広報誌「機構通信」を11月・2月に発行し、全職員に配布。 ・ 経営状況説明会を11月に八幡病院、12月に医療センターで開催。 ・ 9月に九州大学心臓血管外科教授による講演会を開催。 ○ 職員と病院幹部の交流については、診療科ヒアリング、経営状況説明会でのアンケート調査、働き方改革研究会の活動等、できるだけ多くの機会の設定に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員提案制度については、各病院で実施している制度を基に、今後のあり方について機構内部で検討。 ・ グループウェア「サイボウズ」を活用し、職員と経営幹部が速やかに意見交換できる仕組みづくりに着手。 	3	3	<p>職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組むなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>なお、令和元年度の決算状況を念頭に置いて、経営状況等の共有などについて周知し、経営感覚を高めていく必要がある。</p>

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 自主的な業務運営体制の構築 (3) 法令・行動規範の遵守等
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(3) 法令・行動規範の遵守等</p> <p>ア 公立病院として、市民の信頼を確保するため医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、法人職員としての行動規範と倫理を確立する。</p> <p>法令・行動規範の遵守にあたっては、関係内部規定を整備し適切に運用するとともに、コンプライアンスに関する職場研修を定期的に行う。</p> <p>ハラスメント防止にあたっては、人事の公正の確保、職員の利益の保護及び職員の能率の発揮を担保できるよう、基準を整備した上で職員に周知し、厳正に対処する。</p> <p>また、診療情報に関する個人情報については、保護とセキュリティの確保等に努める。</p> <p>イ ガバナンス強化の観点から、役員及び職員の不正防止に向けて地方独立行政法人法に基づく、内部統制の仕組みを整備するとともに、公立病院にふさわしい行動規範・倫理を遵守するための制度を構築する。</p>	<p>(3) 法令・行動規範の遵守等</p> <p>公立病院として、市民の信頼を確保するため、関係法令の遵守、ガバナンス強化等の観点から、法人職員としての行動規範と倫理を確立する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法令・行動規範の遵守の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係内部規定の整備・運用 ・ コンプライアンスに関する職場研修の実施 ○ ハラスメント防止対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 制度や基準の整備、職員への周知 ○ 診療情報の保護・セキュリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙カルテ保管体制の見直しに向けた検討 ○ 役員及び職員の不正防止対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部統制の仕組みの整備

中期目標 (内容)	ア 医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、法人職員としての行動規範と倫理を確立すること。 イ ガバナンス強化の観点から、内部統制の仕組みを整備すること。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 法令・行動規範の遵守等</p> <p>公立病院として、市民の信頼を確保するため医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、法人職員としての行動規範と倫理の確立に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法令・行動規範の遵守に向けて、内部規定の整備や職員研修を実施したほか、今後の運用に向けた調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部規定として、4月に「内部統制の推進に関する規程」、「内部通報及び外部通報に関する規程」を策定。 ・ 職員向けの不正防止研修を12月に実施（機構本部・医療センター・八幡病院） ○ ハラスメント防止に向けて、規程の整備、ハラスメント対策専門官の配置、職員向けの啓発や研修の実施等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月にハラスメント対策専門官を配置し、職員からの相談に対応。相談実績は延べ18件。 ・ 10月に、ハラスメント防止啓発ポスター・チラシを作成して掲示・配布 ・ 看護師長以上の看護師向けのハラスメント防止研修を実施（医療センター2月） ○ 診療情報の保護・セキュリティの確保に向けて、各病院において、規程の点検等を行ったほか、紙カルテの保管体制の見直しに向けて、他病院の取組みを参考に、調査・研究に着手した。 ○ 役員及び職員の不正防止対策や内部統制の仕組みの整備に向けて、監査法人との協議を進めた。 	3	3	内部規定の整備をはじめ、ハラスメント対策専門官の配置などに取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 4 職場環境の充実
--------------	------------------------------------

中期計画	年度計画
<p>4 職場環境の充実</p> <p>ア 働き方改革の観点から、病院の実態に即して、職員が働きやすく、長く働き続けることができる職場環境づくりに努める。</p> <p>また、職場環境の充実に向けた具体策の検討にあたっては、職員で構成するプロジェクトチームを編成する。</p> <p>○ 地方独立行政法人制度の特長を活かした法人固有の人事給与制度の構築に向けて、病院の業績が特に良好な場合の賞与の支給や職員の業績を反映した昇給制度を導入するとともに、人事評価制度のあり方、柔軟な勤務形態の導入等について検討するほか、院内保育所の充実等、子育てや介護が必要な職員が働きやすい職場環境づくりに努める。</p> <p>○ 働き方改革の観点から、医療スタッフの負担軽減のため、医師や看護師の事務作業補助者の配置、病棟への薬剤師の配置や手術室への臨床工学技士の配置、医療業務のタスクシフティング等に取り組むとともに、時間外勤務の削減や有給休暇が取得しやすい職場にするため、人員配置や業務の見直し等に取り組む。</p> <p>また、ワークライフバランスの確保、職員の健康保持に取り組む。</p> <p>イ 職員のやりがいや満足度の向上に向けて、職員満足度調査を実施するとともに、職員研修や職員提案制度の充実、人事評価制度の見直しなどに取り組む。</p>	<p>4 職場環境の充実</p> <p>働き方改革の観点から、職員が働きやすく、長く働き続けることができる職場環境づくりに努めるとともに、職員のやりがいや満足度の向上に向けた取組みを進める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革推進本部の設置・運営 ・ 職種別のプロジェクトチームの設置・運営 <p>○ 医療スタッフの負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師や看護師の事務作業補助者の配置 ・ 病棟への薬剤師の配置に向けた検討 ・ 手術室への臨床工学技士の配置 ・ 医療行為の一部の他の職種への委譲に向けた検討（タスクシフティング） ・ 救急救命士の採用【再掲】 <p>○ 法人固有の人事給与制度の構築に向けた調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業績が特に良好な場合の賞与支給制度の導入 ・ 職員の業績を反映させた昇給制度の導入 ・ 柔軟な勤務形態の導入 ・ 学会参加等に関する服務取扱いの見直し <p>○ 人事評価制度の見直しに向けた調査・研究</p> <p>○ 職員研修の充実に向けた調査・研究</p> <p>○ 職員が働きやすい職場環境づくりにに向けた調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内保育所の充実 ・ 時間外勤務の削減 ・ 有給休暇の取得促進 ・ ワークライフバランスの確保 ・ 職員の健康保持 <p>○ 職員満足度調査の実施</p> <p>○ 看護師の離職防止・定着促進</p> <p>○ 法人固有の福利厚生制度の検討</p>

中期目標 (内容)	ア 働き方改革の観点から、病院の実態に即した職員が働きやすい職場環境づくりに努めること。 イ 職員のやりがいや満足度の向上に努めること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>4 職場環境の充実</p> <p>働き方改革の観点から、病院の実態に即して、職員が働きやすく、長く働き続けることができる職場環境づくりに努めるとともに、職員のやりがいや満足度の向上に向けた取組みを進めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働き方改革を推進するため、機構内に「働き方改革推進本部」を設置するとともに、全ての職種の若手職員で構成する「働き方改革研究会」を設置して議論を重ね「最終提言」をとりまとめた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月に機構内に「働き方改革推進本部」を設置。併せて、機構本部長の主導により、全職種の若手職員で構成する「働き方改革研究会」を発足。具体策に関する議論を重ねて中間提言を取りまとめ、1月に機構職員へのパブリックコメントを実施した後、職員の意見を反映した「最終提言」をとりまとめて3月に推進本部へ報告。 ○ 医療スタッフの負担軽減に向けて、事務補助者の配置やタスクシフティングなど、年度計画に基づいて各種の取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師や看護師の負担軽減のため、医療センターの一部の病棟に事務作業補助者6名を配置。八幡病院への配置を含め、来年度の増員に向けて準備を実施。 ・ 病棟での薬剤管理や服薬指導のため、医療センターの一般病棟に薬剤師を配置(11名)。来年度は八幡病院の病棟への薬剤師の配置を予定(17名)。 ・ 医療機器の点検業務を効率化するため、4月に医療センターの手術室、内視鏡室に専任の臨床工学技士を配置(2名)。八幡病院の手術室への配置を含め、来年度の増員を準備。 ・ 医療行為の一部(特定行為)を専門看護師にシフトするため、来年度以降の研修予定看護師の選考を実施。 ・ 救急医療に関する専門人材として、救急救命士の来年度からの採用を実施。【再掲】 ○ 法人固有の人事給与制度の構築に向けて、新たな賞与支給制度や昇給制度等、年度計画に基づいて各種の取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 賞与支給制度について、業績が特に良好な場合に支給する仕組みを導入。 ・ 昇給制度について、法人固有の給料表を基に、職員の業績を反映させる仕組みを導入。 	3	3	<p>働き方改革を推進するため、機構内に「働き方改革推進本部」の設置や、人事給与制度や人事評価制度についての検討等を進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>看護師の離職率については、平成29年度と比べて改善しており、引き続き職場環境の充実に努められたい。</p> <p>「働き方改革研究会」において取りまとめられた「最終提言」を踏まえた取組みの進捗・実現に期待する。</p>

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
看護師の 離職率	医療センター	7.5%	8.1%以下	5.4%
	八幡病院	8.5%	8.1%以下	7.2%

※ 看護師の離職率 = 当年度退職者数 ÷ 当年度平均常勤職員数 ((年度当初数 + 年度末数) ÷ 2) × 100

<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務形態について、理学療法士と作業療法士の勤務時間を弾力的に見直したほか、看護師の交代制に関する調査・研究にも着手。 ・ 服務取扱いについて、学会等に参加しやすい仕組みに機構内部の基準を変更。 ○ 人事評価制度の見直しに向けて、他病院の制度を参考に、調査・研究に着手した。 ○ 職員研修の充実に向け、他病院の制度を参考に、調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が働きやすい職場環境づくりに向けて、院内保育所の充実等、年度計画に基づいて各種の取組みを進めた。 ・ 院内保育所について、八幡病院の院内保育所を新築したほか、保育料の見直しや来年度からの病児保育の実施など両病院共通で制度の充実を実施。 ・ 時間外勤務の削減に向けて、欠員補充や前倒し採用など、多職種において職員の負担軽減を実施。前倒し採用は、助産師・看護師 42 名、診療放射線技師 2 名、臨床検査技師 3 名、臨床工学技士 1 名。 ・ 有給休暇の取得促進に向けて、4 月に全職員を対象に通知を行ったほか、10 月に上半期の取得状況を、1 月に第三四半期までの取得状況を調査し、取得率が低い部門への指導等を実施 ・ ワークライフバランスの確保に向けて、時間外勤務や有給休暇取得の状況を把握するとともに、欠員補充や前倒し採用によって職員の負担軽減に努めるなど、多角的な取組みを実施。 ・ 職員の健康保持について、健康診断等を適切に実施するとともに、全職員を対象にインフルエンザ予防接種を実施したほか、新型コロナウイルスへの感染防止対策も実施。 ○ 平成 30 年度に実施した職員満足度調査の結果を取りまとめて 11 月に職員に公開したほか、次回の調査実施に向けた準備に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師の離職防止・定着促進に向けて、病棟クランクの配置による業務負担の軽減に取り組んだほか、働き方改革の取組みと並行して、勤務条件や人員配置のあり方など、更なる対策に向けた調査・研究に着手した。 ・ 法人固有の福利厚生制度の創設に向けて、他都市の取組みを参考に、調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> また、職員相互の親睦を深めるため、機構主催のレクリエーションを企画実施した。 ・ ソフトバレーボール大会（11 月）。 ※ 2 月のボウリング大会は新型コロナ感染拡大により中止。 			
--	--	--	--

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 財務基盤の安定化	
	中期計画	年度計画
<p>1 財務基盤の安定化</p> <p>ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。</p> <p>財務基盤の安定化に当たっては、経営課題を明確にし、中長期的な収支管理に取り組むとともに、月次決算等の経営情報をきめ細かく把握し、部門別の目標達成状況の分析を行うことにより、経営情報を法人全体で共有する。</p> <p>また、そうした情報を法人全体で共有するとともに、部門ごとの目標達成状況を適宜確認するなど、目標管理による病院運営体制を確立する。</p>		<p>1 財務基盤の安定化</p> <p>政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効率的な病院運営の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月次決算等による経営情報の把握 ・ 部門別の目標達成状況の分析 ・ 経営課題、経営情報の法人全体での共有 ○ 目標管理による病院運営体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構ミッション工程表の策定【再掲】 ・ 部門別の目標達成状況の分析【再掲】 ○ 目標達成に対するインセンティブの導入に向けた検討

中期目標 (内容)	ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>1 財務基盤の安定化</p> <p>ア 財政基盤の安定化に向けた効率的な病院運営</p> <p>財務基盤の安定化に向けて、政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営情報の把握、部門別の目標達成状況の分析、経営課題、経営情報の法人全体での共有など、年度計画に基づいて取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の経営本部会議において、月次決算を報告し、目標達成状況、未達成項目の原因分析、今後の改善策等に関する情報共有等を実施。 また、各病院においても、毎月の運営協議会で同様の取組みを実施。 ・ 各病院において、部門別に目標を設定し、経営ヒアリング等を通じて、達成状況の確認や課題の分析等を実施。 ・ 経営課題や経営情報を法人全体で共有するため、各病院での経営状況説明会の開催（11月に八幡病院、12月に医療センター）、職員広報誌への経営情報の掲載等を実施。 ○ 目標管理による病院運営体制の確立に向けて、工程表を作成して進捗管理を開始したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有するなど、様々な取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画や年度計画等に掲載した具体的事業の達成状況を「機構ミッション工程表」として整理し、進捗状況の自己評価を実施。また、重点事業や評価の低い事業を対象に経営幹部によるヒアリングを実施。【再掲】 ・ 各病院において、部門別に目標を設定し、経営ヒアリング等を通じて、達成状況の確認や課題の分析等を実施。【再掲】 ○ 目標達成に対するインセンティブの導入に向けて、医師を対象とした功績表彰制度を試行的に実施したほか、来年度以降のインセンティブ制度の創設に向けて準備を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月に、高い業績を達成した医師を対象とした功績表彰制度を試行実施。医療センター4名、八幡病院4名の医師を表彰。 ・ 令和2年度予算の予備費として、インセンティブ経費を確保。 	3	3	<p>効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営状況の把握や目標管理による手法の導入などを進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応を行うとともに、財政基盤の安定化に向け、経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取組みを着実に進めることが必要である。</p>

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 財務基盤の安定化
--------------	--------------------------------

中期計画	年度計画
------	------

イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。

○ 営業収支及び経常収支の黒字化の実現に向けた取組み

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
営業収支比率	法人全体	-	100.3%	93.7%
	医療センター	-	102.6%	97.0%
	八幡病院	-	100.9%	92.6%
経常収支比率	法人全体	96.5%	100.7%	94.2%
	医療センター	97.5%	103.2%	97.4%
	八幡病院	101.0%	101.3%	92.9%

※ 営業収支比率=営業収益÷営業費用×100

※ 経常収支比率=経常収益÷経常費用×100

※ 医療センターと八幡病院には、法人本部、看護専門学校の収支は含まない。

中期目標 (内容)	イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現すること。
--------------	------------------------------------

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 営業収支及び経常収支の黒字化</p> <p>年度計画に基づいて様々な施策に取り組み、財政基盤の安定化に努めたが、収益及び費用面で想定外の事態が発生した影響もあり、令和元年度の決算は目標を大きく下回る厳しい結果となった。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 営業収支及び経常収支の黒字化の実現に向けて、中期計画や年度計画等に基づいて、マネジメント体制の確立、目標管理の徹底、収入増加・経費節減に取り組んだ。</p> <p>しかしながら、収益面では、医療センターの上半期の低迷、八幡病院の内科系医師の大量退職、1月以降の新型コロナウイルス対策等によって入院収益が目標を大きく下回ったほか、費用面では、高額医薬品の使用増加、人件費高騰による委託料の増加等、新たに多額の費用が増加した。</p> <p>そのため、令和元年度の決算は目標を大きく下回る厳しい結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営業収支 ▲17.0億円 (予算比▲14.9億円) ・ 経常収支 ▲15.9億円 (予算比▲14.6億円) 	2	2	<p>営業収支及び経常収支の黒字化に向けて取り組みを進めたが、目標を大きく下回る結果となっており、評価「2」とした。</p>

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 財務基盤の安定化	
中期計画	年度計画	
<p>ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。</p> <p>○ 大規模な設備投資等については、資金の借入れや返済等、長期的な資金収支に影響を与えることから、単年度実質収支の均衡、必要な年度末資金剰余の確保等に努める。</p>	<p>○ 単年度実質収支の均衡</p> <p>○ 必要な年度末資金剰余の確保</p> <p>○ 外部資金の獲得に向けた検討</p>	

中期目標 (内容)	ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れ、返済等、長期的な資金収支の均衡を図ること。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 長期的な資金収支の均衡 営業収支及び経常収支が赤字になったことに伴い、実質的な資金収支が大幅に悪化した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 単年度実質収支（単年度資金収支）は、 5.3億円（予算比+7.1億円）、 年度末資金剰余は、 27.3億円（予算比+7.1億円） となった。</p> <p>ただし、これは移行前地方債償還債務（22億円）の返済が令和2年度にずれ込んだためであり、実質的には、単年度実質収支、年度末資金剰余ともに大幅に減少することとなる。</p> <p>○ 外部資金の獲得に向けて、寄付金の受入れや活用に関する規定の整備等を実施したほか、治験・臨床研究の推進体制の整備等に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寄付金の受入れや活用に関する規定を整備し、機構本部・医療センター・八幡病院・看護専門学校での管理体制を構築。 寄付金の募集についてホームページで公開。 ・ 治験・臨床研究の推進に向けて、施設・設備の充実、体制強化等を実施したほか、製薬会社等との契約内容の見直しにも着手 	2	2	<p>単年度実質収支や年度末資金剰余は、移行前地方債償還債務（22億円）の返済が令和2年度にずれ込んだことにより予算比でプラスとなっているが、実質的には、単年度実質収支（単年度資金収支）は、 ▲16.8億円 （予算比▲15.0億円） 年度末資金剰余は、 +5.2億円 （予算比▲15.0億円） であり、大幅に悪化していることから、評価「2」とした。</p>

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 運営費負担金のあり方	
中期計画	年度計画	
<p>2 運営費負担金のあり方</p> <p>法人としては、可能な限り自立した経営に努めることとするが、財務基盤の安定化に向けて医療センターと八幡病院の役割である政策医療の実施にかかる費用等については、国の基準に基づいて市の運営費負担金が適切に交付されるよう、市の支援を求めていく。</p>	<p>2 運営費負担金のあり方</p> <p>法人としては、可能な限り自立した経営に努めることとするが、財務基盤の安定化に向けて医療センターと八幡病院の役割である政策医療の実施にかかる費用等については、国の基準に基づいて市の運営費負担金が適切に交付されるよう、市の支援を求めていく。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運営費負担金算定根拠の明確化 	

中期目標 (内容)	政策医療の実施等に対する運営費負担金については、法人の経営状況を見ながら、国が示す基準等に基づいて適切に行うこととするが、法人としては、経営効率化の観点から可能な限り自立した経営を目指すこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>2 運営負担金のあり方</p> <p>法人としては、可能な限り自立した経営に努めることとするが、財務基盤の安定化に向けて医療センターと八幡病院の役割である政策医療の実施にかかる費用等については、国の基準に基づいて市の運営費負担金が適切に交付されるよう、市の支援を求めた。</p> <p>※令和元年度の運営費負担金の実績・総額 34.4億円(予算比)±0億円</p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症医療 1.3億円 ・周産期医療 5.2億円 ・小児救急を含む救急医療 15.7億円 ・看護師養成費 0.6億円 ・院内保育所運営費 0.4億円 ・企業債元利償還金 11.2億円 	3	3	運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 看護専門学校運営
--------------	----------------------------------

中期計画	年度計画								
<p>1 看護専門学校の運営</p> <p>ア 地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院との一体的運営という利点を活かし、講義や臨地実習等において、相互協力することにより、臨床看護及び教育の質を向上させる。 ○ 地域の看護職の教育に貢献するため、可能な限り学校施設・設備及び教材の開放に努める。 ○ 優秀な看護学生の確保に向けて、学生や社会人を対象としたオープンキャンパスを実施するとともに、学校訪問や説明会の開催等に取り組む。 ○ 看護師の定着に向けて、卒業生に対するフォローアップ事業に取り組む。 <p>イ 教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員については、市立病院看護部との人事交流により、看護教育に適性の高い人材の配置・育成に取り組む。 ○ 教育環境の整備や学習教材の充実等に取り組むとともに、卒業生の市内就職率の向上に向けて、奨学金制度や授業料等、学生による費用負担のあり方について検討する。 <p>ウ 将来的な看護専門学校のあり方については、市内の看護師の需給状況や関係機関の動向を踏まえ、市と法人で十分協議する。</p>	<p>1 看護専門学校の運営</p> <p>地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組むとともに、教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 臨床看護及び教育の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義等における市立病院との相互協力 ・ 市立病院看護部との人事交流 ・ 看護教育に適性の高い人材の配置・育成 ・ 教育環境の整備 ・ 学習教材の充実 ○ 学校施設・設備及び教材の開放 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパスの実施 ・ 学校訪問や説明会の開催等 ○ 卒業生の市内就職率の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生に対するフォローアップ ○ 奨学金制度や授業料等の学生負担のあり方の検討 ○ 看護学生の実習受入れ体制等の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任看護師の配置に向けた検討 ・ 費用負担の見直し ○ 外部資金の獲得に向けた検討【再掲】 ○ 将来的な看護専門学校のあり方の検討 								
<p><関連指標及び目標></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 20%;">平成29年度 実績</th> <th style="width: 20%;">令和5年度 目標</th> <th style="width: 20%;">令和元年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業生の 市内就職率</td> <td>81.6%</td> <td>83.6%</td> <td>83.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 卒業生の市内就職率 = 北九州市内就職者数 ÷ 就職者数 × 100</p>		項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績	卒業生の 市内就職率	81.6%	83.6%	83.3%
項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績						
卒業生の 市内就職率	81.6%	83.6%	83.3%						

中期目標 (内容)	<p>ア 地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組むこと。</p> <p>イ 教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努めること。</p> <p>ウ 将来的な看護専門学校のある方については、市と十分協議すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>1 看護専門学校の運営</p> <p>地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組むとともに、教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 臨床看護及び教育の質の向上に向けて、看護教育人材の確保、教育環境の整備、学習教材の充実など、年度計画に基づいて取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義や臨地実習にあたっては、医師や看護師の講師派遣について、医療センター及び八幡病院との相互協力を実施。医療センターから医師25名、看護師16名、助産師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名を派遣（計45名）。八幡病院から医師1名、看護師7名を派遣（計8名） ・ 優秀な教員の確保に向けて、各病院看護部との人事交流を実施。医療センター看護師1名を福岡県看護教員養成講習会に派遣等。 ・ 看護教育に適正の高い人材を配置するため、専任教員養成講習会受講者9名を配置。 ・ 教育環境の整備に向けて、施設・設備の改修計画を作成したほか、公用車の確保や図書館司書の配置等について検討 ・ 学習教材の充実に向けて、モデル人形等の教具、図書やDVD教材など、必要な学習機材を調達。 ○ 学校施設・設備及び教材の開放に向けて、オープンキャンパスの実施や学校訪問等、年度計画に基づいた取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生や保護者を対象としたオープンキャンパスを開催（6月は42名参加、7月は127名参加）。施設見学や在校生との交流等を実施。 ・ 市内や近隣の高校を訪問して教育内容等の説明会を実施（5校、参加者計55名）。 ○ 卒業生の市内就職率の向上に向けて、卒業生に対するフォローアップを実施したほか、就職ガイダンスや校長講話等を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生に対するフォローアップとして、卒業生の近況調査、懇親会等を実施 ・ 2年生を対象とした就職ガイダンス、全学年を対象に校長による講話を実施。 ○ 奨学金制度や授業料等の学生負担のあり方について、学生へのアンケート調査や他都市の制度を参考に、調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生を対象に奨学金制度に関するアンケート調査を実施（2月） 	3	3	<p>臨床看護及び教育の質の向上に向け、看護教育人材の確保や教育環境の整備などへ取り組んでおり、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

--	--

<p>○ 看護学生の実習受入れに体制等について、専任看護師の配置や費用負担など、今後のあり方に関する調査・研究に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の看護専門学校からの看護学生の受入れにあたり、医療センター及び八幡病院への専任看護師の配置を検討。また、実習料等について、他病院の状況を調査。 <p>○ 寄付金の受入れや活用に関する規定を整備し、看護専門学校での管理体制を構築。寄附金の募集についてホームページで公開。</p> <p>○ 将来的な看護専門学校のあり方について、少子化等の社会的要因を踏まえ、機構内部での検討を開始した。</p>			
--	--	--	--

<p>中期目標 (項目)</p>	<p>第4 その他業務運営に関する重要事項 2 施設・設備の老朽化対策</p>
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>
<p>2 施設・設備の老朽化対策 建築後25年以上を経過している医療センターの老朽化対策については、法人内部での検討を開始する。 その際、周産期医療、感染症医療や災害時における医療等の政策医療については、市全体で検討される将来的なあり方を踏まえる必要があり、市と緊密に連携しながら市全体の枠組みの中でその実施体制を検討する。 なお、医療センターの老朽化対策を含めた大規模な投資が必要な事案については、市と十分協議しながら取組を進める。</p>	<p>2 施設・設備の老朽化対策 【令和元年度の取組み】 ○ 医療センターの老朽化対策の検討 ○ 市における政策医療のあり方の検討への参画</p>

中期目標 (内容)	建築後25年以上を経過している医療センターの老朽化対策等、大規模な投資が必要な事案については、将来的な政策医療の提供体制に関する検討結果等を踏まえる必要があることから、市と十分協議すること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>2 施設・設備の老朽化対策</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療センターの老朽化対策について、機構内部での調査・研究に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設や設備の老朽化状況を把握するとともに、今後10年間に必要となる改修や設備更新にかかる費用の調査に着手(2年度に実施) ○ 市における政策医療のあり方について、大学や医師会等の関係者と意見交換を行うなど、機構内部での調査・研究に着手した。 	3	3	老朽化状況等の調査に着手していることなどから、評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 3 市政への協力
--------------	--------------------------------

中期計画	年度計画
<p>3 市政への協力</p> <p>ア 地域包括ケアシステムの構築や、障害者医療への支援体制づくりなど、市が進める保健・医療・福祉・介護に関する施策については、積極的な役割を果たす。</p> <p>イ 災害発生時やその他の緊急時の医療提供体制については、北九州市地域防災計画や北九州市災害対策本部の決定等に基づき、北九州市医師会と連携し、適切な役割を果たす。</p> <p>ウ その他、市からの協力要請については、積極的に対応する。</p>	<p>3 市政への協力</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州市との緊密な連携体制の構築 ○ 全国・福岡県内の公立病院との連携の強化

中期目標 (内容)	<p>ア 地域包括ケアシステムの構築や障害者医療への支援体制づくりなど、市が進める保健、医療、福祉及び介護に関する施策について、積極的な役割を果たすこと。</p> <p>イ 災害発生時やその他の緊急時の医療提供体制については、「北九州市地域防災計画」や北九州市災害対策本部の決定等に基づき、北九州市医師会と連携し、適切な役割を果たすこと。</p> <p>ウ その他、市からの協力要請については、積極的に対応すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>3 市政への協力</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 北九州市との緊密な連携体制の構築に向けて、市が進める保健・医療施策について積極的な役割を果たすとともに、組織トップから事務レベルまで様々な階層において、緊密に連携できる体制を構築した。</p> <p>また、新型コロナウイルス対策について、北九州市からの要請に基づき、市との緊密な連携の下、市内医療機関の中心的な役割を果たした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北九州市が進める医療・介護・健診情報のネットワーク化「とびうめ@きたきゅう」について、10月に八幡病院及び11月に医療センターにおいて協力を表明。 ・ 令和元年度は、理事長・副理事長が市長・副市長をはじめとする市幹部と随時協議したほか、事務レベルでは毎月の定例会を開催し、様々な階層で緊密に意見交換等を実施。 <p>○ 全国・福岡県内の公立病院との連携の強化に向けて、自治体病院や地方独立行政法人病院の全国会議やブロック会議等に積極的に参加し、交流を深めた。</p>	5	4	<p>市との連携体制の構築を進めるとともに、新型コロナウイルス対策について、市からの要請に基づき、積極的な対応を行った。</p> <p>一方で、感染症医療や救急医療等に対して市立病院機構のみが運営費負担金を受けており、新型コロナウイルス感染症対策の協力医療機関等から市立病院機構へ更なる対応が求められていることなどから、評価「4」とした。</p>

第5 予算、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

第6 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画（令和元年度）	令和元年度実績																		
<p>1 施設及び設備の整備に関する計画</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>4,944</td> <td>北九州市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	4,944	北九州市長期借入金等	<p>1 施設及び設備の整備に関する計画</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>761</td> <td>北九州市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	761	北九州市長期借入金等	<p>1 施設及び設備の整備に関する計画</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備内容</th> <th>実績額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>556</td> <td>北九州市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備内容	実績額	財源	病院施設、医療機器等整備	556	北九州市長期借入金等
施設及び設備内容	予定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	4,944	北九州市長期借入金等																		
施設及び設備内容	予定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	761	北九州市長期借入金等																		
施設及び設備内容	実績額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	556	北九州市長期借入金等																		
<p>2 人事に関する計画</p> <p>医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応することができるよう、組織及び職員配置の在り方を常に検証し、必要に応じて弾力的な見直しを行う。</p>																				
<p>3 中期目標の期間を超える債務負担</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中期目標期間償還額</th> <th>次期以降償還額</th> <th>総債務償還額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>9,163</td> <td>13,237</td> <td>22,400</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還債務</td> <td>1,182</td> <td>3,758</td> <td>4,940</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10,345</td> <td>16,995</td> <td>27,340</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額	移行前地方債償還債務	9,163	13,237	22,400	長期借入金償還債務	1,182	3,758	4,940	計	10,345	16,995	27,340				
項目	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額																	
移行前地方債償還債務	9,163	13,237	22,400																	
長期借入金償還債務	1,182	3,758	4,940																	
計	10,345	16,995	27,340																	
<p>4 積立金の処分に関する計画</p> <p>なし</p>																				